はじめに

　この講座では「志望理由書」「自己アピール文」に不可欠な要素を学びます。
　出願書類は、総合型選抜・学校推薦型選抜で学生を選考する材料として重視されます。そして、主として「志望理由書（『あなたはなぜ志望大学・学部・学科を選んだのか』を説明する文章）」「自己アピール文（『あなたはなぜ志望大学・学部・学科に入学するのにふさわしいのか』を説明する文章）」の要素の組み合わせで成り立っています。この講座は、志望理由書と自己アピール文で記すべき要素、そしてその中で込める「熱意」のあり方を学ぶ講座です。例えば、このような形式で出願書類の提出が求められます。

事例を見てみよう

○ 事例1

●慶應義塾大学文学部　自主応募制による推薦入学者選考　自己推薦書

1. 高等学校では何に力を入れ，どのような成果を上げましたか。具体的に書いてください（資格を取得した場合は，そのことについても触れてください）。また，可能な限り，それらを証明する書類（コピー可）を添付してください。

見本

2. 文学部をなぜ第一志望としたのですか。また，文学部で何を学び，将来，どのように活かそうと考えていますか。具体的に書いてください。

〈注意〉この所定用紙（１枚）の枠内に書き収めてください。
　　　　パソコンを使用して文書を作成してもかまいません。

※こちらは2024年度入試問題です。毎年変更の可能性があるので、必ず最新の入試要項などを確認しましょう。

事例を見てみよう

○ 事例2

●法政大学キャリアデザイン学部　キャリア体験自己推薦入学試験　志望理由書（自己推薦書）

つぎの①～③にしたがって、2000字以内で記入してください。

①最初に、本文の主題に相当するような「見出し」を20字程度で考えてつけてください。
②本文は、
　・キャリアの形成・再教育とその支援、生涯学習、生活文化への具体的な関心
　・高校時代またはそれ以降に培った諸資格、文化・芸術・スポーツ活動、
　ボランティア活動等における実績の紹介
　・入学に際しての抱負
　などの内容を盛り込んで自由に記述してください。
③黒または青のボールペン（インク）を使用し、自筆で記入してください。
④志望理由書（自己推薦書）はまとめて左上を縦向きにホチキス留めしてください。

（見出し）　　　　　　　　　　　氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿

（本文）

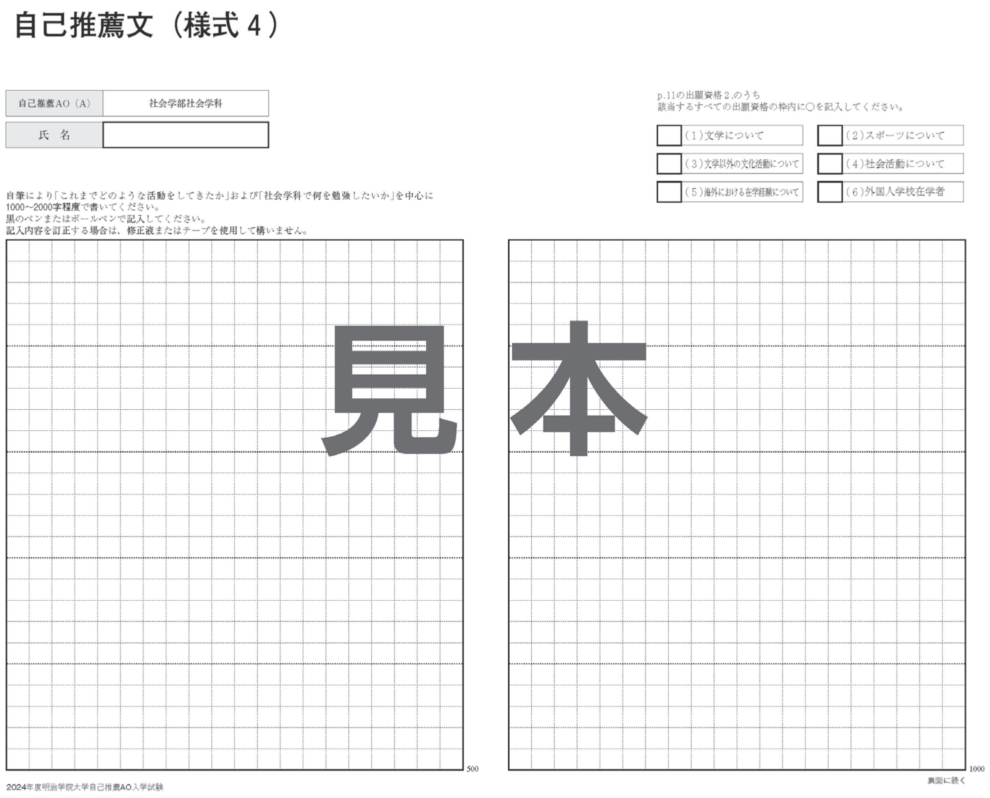
見本

※こちらは2020年度入試問題です。毎年変更の可能性があるので、必ず最新の入試要項などを確認しましょう。

事例を見てみよう

○ 事例3

●明治学院大学社会学部社会学科　自己推薦AO入試　自己推薦文



自己推薦文（様式４）

自己推薦AO（A）	社会学部社会学科
氏　名	

p.11の出願資格２.のうち
該当するすべての出願資格の枠内に○を記入してください。

□（１）文学について	□（２）スポーツについて
□（３）文学以外の文化活動について	□（４）社会活動について
□（５）海外における在学経験について	□（６）外国人学校在学者

自筆により「これまでどのような活動をしてきたか」および「社会学科で何を勉強したいか」を中心に
1000～2000字程度で書いてください。
黒のペンまたはボールペンで記入してください。
記入内容を訂正する場合は、修正液またはテープを使用して構いません。

見本

500

1000

2024年度明治学院大学自己推薦AO入学試験

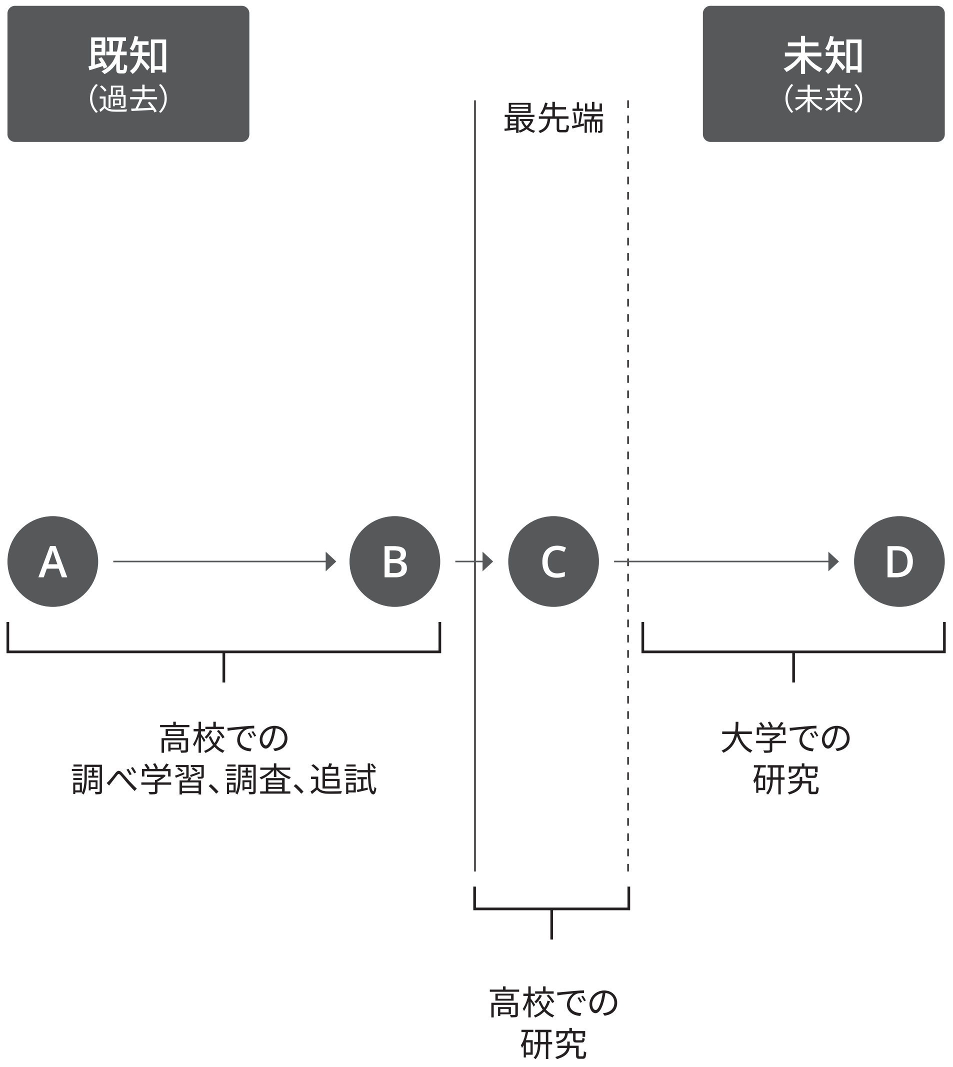
裏面に続く

※こちらは2024年度入試問題です。毎年変更の可能性があるので、必ず最新の入試要項などを確認しましょう。

○ 大学とは研究機関であるという前提に立つことが大事です。

そもそも「大学とはどういったところなのか」をおさらいします。

大学は研究機関です。研究とは、世の中でわかっていないことや解き明かされていないことを、学問の力で解き明かす場所です。そして、大学教員の多くは研究者ですから、既知と未知の境目（最先端、フロンティア）に立ち、自らが積み重ねてきた学術の力を信じて、既知の領域を広げようと日々邁進しています。そして、その成果を世に発信し、いつか世界がより良い方向に進むよう願いながら、研究活動を行う存在です。



○ 大学教員は、真剣に学問と向き合う学生を探しています。

総合型選抜・学校推薦型選抜における試験官は「研究者としての眼差しを持つ」大学教員です。ということは、出願書類もその眼差しを持って評価されます。「大学に入学して学問に真剣に向き合ってくれるのだろうか」「学問の習得を通して世界に貢献できる人なのだろうか」「最先端(フロンティア)に立つ勇気を持ってくれているのだろうか」「大学入学までに(難しいのは承知しているけれど)最先端をのぞこうとしてくれているのだろうか」。こうした思いを持ちながら、素敵な学生を探そうとしています。

○受験生も、真剣に学問を究めたいと願いましょう。

受験生も、大学が研究の場であるという前提に立つなら「このような領域で活動して、問いを深めてきた」「私の興味のある領域での学術の最先端はおそらくこういったものだろう」「このような研究活動をしてみたい」という意志を持ち、試験の場で両者がコミュニケーションを交わすわけです。

ですから、総合型選抜・学校推薦型選抜は、大学側としては研究者としてのイニシエーション(通過儀礼)であり、受験生側としては自分が望む未来像に即した研究活動ができるかを確認するアグリーメント(合意・契約)の意味を持ちます。

○この講座の目標は、あなたが「大学で学ぶべき人間になること」です。

したがって、この講座では「大学は研究機関である」という前提のもと、どのような手続きを経れば学問と向き合えるのか、最先端(フロンティア)を想定しながら大学で研究活動ができるのか、自分は大学という場で学ぶのにふさわしい人間になれるのか、ということを考えていきます。ここでは答案例を数多く掲載していますが、その答案を書いた受験生(全員皆さんの先輩にあたります)がさまざまな課外活動や探究活動をもとに、どういう体験や経験、試行錯誤を重ね、最終的な文章に仕立てたのかを語ります。ぜひ、自分と重ねながら答案を見つめてみてください。

○ この講座、「カンザキメソッド」はとてもハードです。

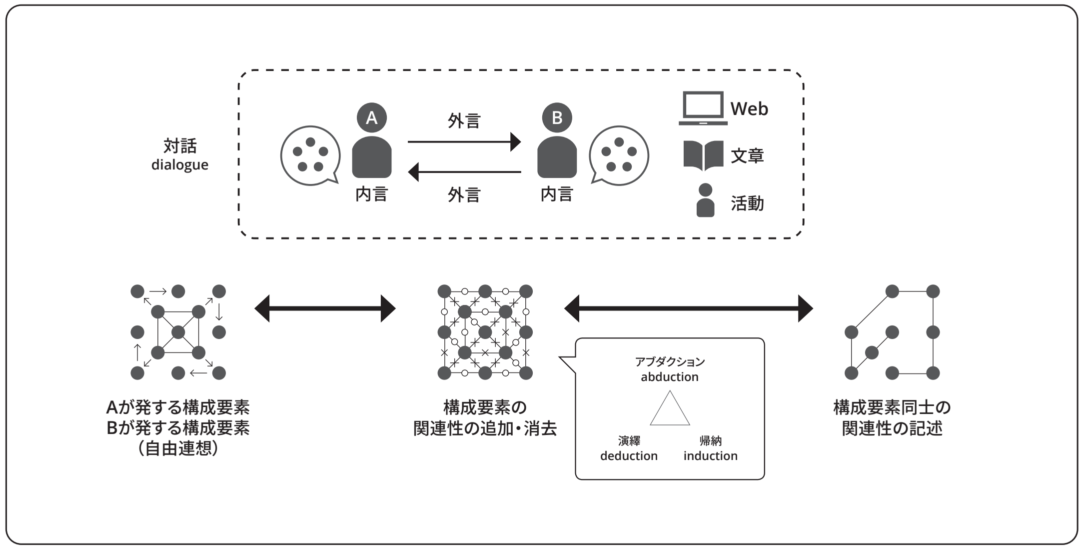
この講座の内容は、あなたの状況によってはハードなものになるかもしれません。難しいと感じたり、時間がないから手っ取り早く教えてほしいと思ったりするかもしれません。そして、そういう時間がない受験生、手間暇をかけることを避けたい受験生向けに、さまざまな指導者が色々な方法論を展開しています。しかし、私はそういう指導のあり方とは距離を置いています。私のメソッドはそうした指導者の方法論と比べてハードだということです。

私は「攻める出願書類」、つまり、積極的に学問を究めたいという意志を持って出願書類を構築するという方法で戦いに挑みますし、そのおかげで高い合格率を得ることができています。自己を見つめることも、学術の最先端をのぞき込むことも、身につけた学問を通して未来を創造することも求めますから、そんなに簡単なことではありません。しかし、手間はかかりますが、じっくりと取り組めば取り組むほどに、志望理由も自己アピールも熟成されていきます。諦めずに、最後まで取り組んでください。私もあなたをできる限りサポートします。

○ 志望理由や自己アピールを構築するには、他者との対話(dialogue)が欠かせません。

ただし、この講座を受講するだけでは不十分です。それは、動画だけでは対話(dialogue)ができないからです。

あなたはさまざまな経験を重ねている人、知識を持っている人、積極的に行動すれば大学教員や研究者にも会うことができます。もちろん書籍や論文や、web等でも学ぶことができます。そして、人々は生きてきた環境も期間も経験も違いますから、独自の内なる言葉を持っています。そうした他者の内なる言葉と、あなたのそれを互いに外なる言葉にし合い、掛け合わせます。こうした対話によって、あなたが研究したいことや、あなたの特性が形になっていきます。もしかしたら、他者の眼差しを通して、あなたが気づかなかったことをすくい上げられるかもしれません。



○ 独白(monologue)の罠、あなたの成長を止めようとする罠にかからないでください。

こうした他者との接続を試みないと、あなたが持つ経験だけで思考を巡らせてしまいます。これを独白(monologue)といいます。自分の経験は限られた世界でのものですし、そこで得た内なる言葉で知を構築してもよき世界をつくることは難しいでしょう。

ぜひ、積極的に他者と、知らない世界を知っている人と対話をしてみてください。特に志望理由書を構築するときは、できれば研究経験のある人(大学院修了者や在籍者)と対話をして、あなたの研究計画を育ててください。ときに「研究なんて早い」「そこまでやる必要はない」と言われることがあるかもしれませんが、研究そのものに触れることは素敵なことですから、そういう言葉に惑わされないでください。

では、講座で一緒に未来をつくりにいきましょう。私も応援しています。

神﨑 史彦

Contents

章	講義名	テキスト ページ数	動画 チャプター1	動画 チャプター2	動画 チャプター3	動画 チャプター4	備考
はじめに	はじめに	p.1 — p.6	講座概要、受講方法、 書類の表記・表現方法	—	—	—	—
	Contents	p.7 — p.8	—	—	—	—	—
	本講座の学習の流れ	p.9	—	—	—	—	—
	総合型選抜対策講座シリーズ 受講の流れ	p.10	—	—	—	—	—
志望理由書作成の極意	第1講 志望理由の必須要素	p.11 — p.14	志望理由の要素① 研究テーマ	志望理由の要素② 研究の重要性	志望理由の要素③ 研究に必要な学び	志望理由の要素④ 志望大学とのマッチング	
	第2講 ライバルを知る	p.15 — p.20	体験の経験化	リサーチクエスチョン	リサーチデザインと 志望大学との相性	未来創造×学問	予習あり (p.15〜16)
	第3講 攻める志望理由書の思考法① 体験の経験化	p.21 — p.32	体験したときのズレに 敏感になる	見えない世界をのぞき込む	事柄が生まれる システムを整理する	事象の発生は複雑で偶然が伴う	
	第4講 攻める志望理由書の思考法② 研究計画	p.33 — p.44	リサーチクエスチョン	リサーチデザイン① 研究のプロセス	リサーチデザイン② 理論の発展段階	リサーチデザイン③ 論文の探し方・読み方	
	第5講 攻める志望理由書の思考法③ キャリアデザイン	p.45 — p.52	志望先での学び・研究① リサーチデザインとの接続	志望先での学び・研究② 学修計画	つくりたい世界・未来① 多様化する世界と向き合う	つくりたい世界・未来② 来てほしい未来	
	第6講 合格者の志望理由書から学ぶ	p.53 — p.60	実績があるとき① 実績の活かし方	実績があるとき② リサーチデザインと志望大学との調整	特筆すべき実績がないとき① 体験の経験化への工夫	特筆すべき実績がないとき② リサーチデザインの工夫	
自己アピール文作成の極意	第7講 自己アピールの必須要素	p.61 — p.64	自己アピールの要素① 自分の特性	自己アピールの要素② アドミッション・ポリシーとの適合	自己アピールの要素③ 過去の成長物語	自己アピールの要素④ 未来に向けた成長プロジェクト	
	第8講 攻める自己アピールの思考法	p.65 — p.78	Core Identity① 8つの知能	Core Identity② 組織の中の自分	Core Identity③ 自己を表すキーワード	おわりに	予習あり (p.65〜66)
おわりに	おわりに	p.79	—	—	—	—	—
巻末資料	巻末資料① 書類の表記・表現方法チェックシート	p.81 — p.86	はじめに動画の中で解説します	—	—	—	—
	巻末資料② 志望理由書ルーブリック	p.87 — p.90	—	—	—	—	—
	巻末資料③ 自己アピール文ルーブリック	p.91 — p.94	—	—	—	—	—

本講座の学習の流れ

時間がある場合は、第１講から順に視聴すると体系だった学びが得られますので、ぜひ最後まで視聴してみてください。

しかしながら、受験間際で時間が取れない受験生もいることでしょう。その場合は、最大の学びは得られないことを前提に、出願書類の形式に合わせて、最低限以下の講は視聴してください。志望理由、自己アピールで考えるべき必須要素をまとめていますので、ショートカットしておおよそのエッセンスを知ることができるでしょう。

志望理由書の必須要素　　…第１講
自己アピール文の必須要素　…第７講

受講前

志望理由書パート：第1講〜第6講
- 第1講、第3講〜第6講は予習不要です。
- 第2講は予習が必要です。第1講で学んだことをもとにして、p.15〜16の答案を作成してください。

自己アピール文パート：第7講・第8講
- 第7講は予習不要です。
- 第8講は予習が必要です。第7講で学んだことをもとにして、p.65〜66の答案を作成してください。

受講

- テキストにはあなたが考えた内容をまとめる欄がありますので、「授業でこういう事例を挙げていたけれど、私ならどうするだろう」と思考を巡らせて、頭に浮かんだこと、調べたことを色々と書き記してみてください。それを材料にして他者と対話しながら、志望理由または自己アピールを形にすると効果的です。
- 第2・第8講では、講義内の答案例を参考にしたり、解説を聞いたりしながら、予習で書いてきた自分の答案を修正するポイントを探ってください。

受講後／復習

- 受講した講義内容をもとに、第2講・第8講の予習で作成した答案を修正してください。
- 巻末のルーブリック（志望理由書および自己アピール文の評価指標）も活用してみましょう。それぞれの評価基準を抽象的な文章で表現しています。評価基準の文章と自分の答案を照らし合わせ、まずは「このあたりはできている（できていない）」という評価を自分なりにしてみてください。そして、次のレベルに到達するにはどういうことをする必要があるのかを考え、答案を修正してください。目安として、すべての項目がB評価以上になるように頑張ってみてください。

学校の先生との面談で

- 修正した答案やルーブリックでの評価をもとに、学校の先生方などの指導を受けてみてください。その際、どのようなところを修正しようとしているのか、その理由はなぜか、ということを共有できるように準備しておきましょう。そのうえで、修正を施しましょう。

総合型選抜対策講座シリーズ　受講の流れ

試験形式に関わらず、受講推奨

総合型選抜対策講座＜スタートアップ編＞
総合型選抜とは何か、どんな事が求められるのかといった前提知識を学びたい時や、志望校や志望理由を決める時に迷っている場合におすすめです。

総合型選抜対策講座＜出願書類作成編＞
志望理由書、または自己アピール文を書く際に必要な要素や考え方を学びたい時におすすめです。また、巻末資料に自己採点の参考になる評価基準も付いているので、書き上げた書類を見直す際にも参考にしてください。

各自の試験形式に合わせて、必要な講座を選択した上での受講を推奨

総合型選抜対策講座＜事前課題型小論文編＞
事前課題型小論文とは、事前課題として小論文やレポートを課し、出願書類とともに提出したり、2次選考の材料として用いられたりする形式です。作成の際に注意したいポイントを学びたい時におすすめです。

総合型選抜対策講座＜面接編＞
面接を受ける際の準備や心構え、頻出質問例などを学びたい時や、模試面接の様子から実際のイメージなどを持ちたい場合におすすめです。

総合型選抜対策講座＜プレゼンテーション編＞
プレゼンテーションを行う際の準備や心構え、表現方法例などを学びたい時や、模試プレゼンの様子から実際のイメージなどを持ちたい場合におすすめです。

第1講

志望理由の必須要素

チャプター1 志望理由の要素① 研究テーマ
チャプター2 志望理由の要素② 研究の重要性
チャプター3 志望理由の要素③ 研究に必要な学び
チャプター4 志望理由の要素④ 志望大学とのマッチング

答案例を見てみよう

○ 経済学部志望者の答案例

　富裕層と貧困層の格差拡大は世界規模で人道問題として大きな問題となっている。私も10ヶ国に渡る海外渡航を通し、現地の貧富の差に愕然としてきた一人であり、開発途上国の最貧困層の人々の生活を学問で救いたいと願い、貴学を志望する。以下、その経緯と研究の重要性を論じたい。

　この研究計画の源をたどると、高校２年生の時に留学したフィリピンのセブ島での出来事に遡る。幼い子ども達がショッピングモール付近で手当たり次第にお金を要求し、飲みかけの水を貰い、飲食店の食べ残しを探していたのだ。実際、フィリピンは急激な経済発展と同時に経済格差が拡大し、１％の富裕層が国家の富の半分を有する事態となっている。そこで私は、地域ごとの文化や金融のあり方によって、問題の出現の仕方が異なるのではないかと疑問を抱いた。その支援のためにマイクロファイナンスが活用される事例があるが、貧困からの脱出にはそれだけでは不足する。その対策のために資産形成を支援するリレーションシップが欠かせないといわれるが、果たしてそれが貧困回避にどのような影響をもたらすのか。フィリピンを事例に、その効果を経済理論を用いて検証することが、私の研究したいことである。

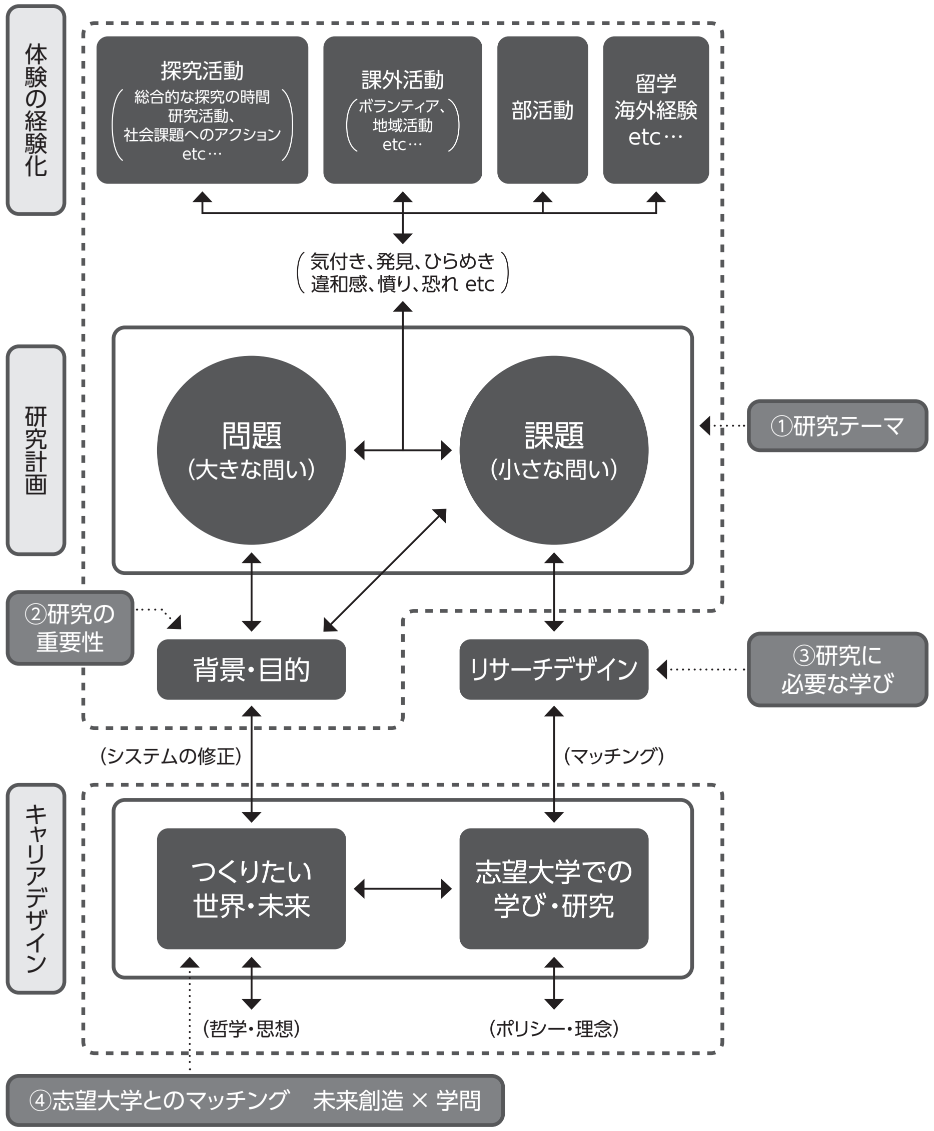
　この研究の効果は３点挙げることができる。一つ目は、最貧困層の脱出の支援を通して、彼らの資産形成を促すこと、二つ目は、新たなマイクロファイナンスのあり方を検討し、最貧困層の脱出方法の開発ができること、そして、三つ目は所属するコミュニティの文化に即した金融開発を通し、ソーシャルビジネスの事業を持続する方法を考えられることである。この研究を行うには、開発途上国をモデルとしたマイクロファイナンスの実情を知り、経済政策のあり方を検討するための学びと研究の場が必要である。

　貴学では、貧困地域開発の基礎となる開発経済学の習得に加え、英語特修プログラムと充実した留学制度を通してフィールドワークに必要な英語力を身に付けることができる。また、貴学は開発途上国の経済支援や政策立案、経済理論による効果の検証のための学びが揃っており、私にとって最適な学びの場である。

　キリスト教精神は自己が施されたいことを他者に施すという隣人愛を大切にしており、それを経済活動の中でも実践する必要がある。将来は、例えばＥＳＧの一環としてソーシャル・ファイナンスへの投資を行う担い手になることを想定している。私は貴学での学びを生かし、持続可能な経済活動を行う一員になりたいと願っている。

生徒メモ欄

○ 志望理由構築の概念図



生徒メモ欄

教員記入欄

第2講

ライバルを知る

チャプター1 体験の経験化

チャプター2 リサーチクエスチョン

チャプター3 リサーチデザインと志望大学との相性

チャプター4 未来創造×学問

予習をしよう

志望理由書を作成してみましょう。字数は問いませんが、志望校で求められる字数に合わせて論じてください。志望校が決まっていない場合は、800字以内でまとめましょう。

答案例を見てみよう

○ 化学科志望者の答案例

　化粧の本質とは何か。我々は美を獲得するために、身体に化粧という「加工」を施す。それは生きる土地の慣習と要請があり、時流によって変化する文化というコードに影響を受け、日々変化する。その基礎となるのが化粧品開発研究である。

　化粧品の開発というと、発色や光の当たり方、質感という側面が研究対象として挙げられがちだ。たしかに美を演出し、身体への加工を施すのであれば欠かせない視点であろう。一方、化粧を人の創作物だと捉えたら、見え方が変わる。人が制作したものは、残念ながら壊れるという運命にある。脆く、儚いものである。しかし、化粧は決して人前で崩してはならないものである。ここに化粧の決定的な矛盾が生じる。崩れた瞬間に文化というコードから逸脱することを表すことになる。そして、逸脱からの脱却を常に試みることになる。この矛盾とどう向き合うべきか。

　その技術として注目すべきは、化粧の保持技術に他ならない。私はこの技術開発を通し、化粧が持つ「美と崩壊」の矛盾を解消し、化粧を施した人々の文化的生活を支える担い手として生きていきたいと望んでいる。

　その意志を育んだのは、高校における探究活動であった。私はその際、メイクキープ技術開発の「ポリクオタニウム—11」を取り上げた。分子構造が変わることで匂いも変わるということは、既存の化粧品も分子構造の変化で品質改良できるのではないかと考えたのである。ポリクオタニウムはまさに化粧の保持の肝となる物質であったのだ。「ポリクオタニウム—11」は、化学構造的にジメチルアミノエチルメタクリレートとビニルピロリドンの共重合体を硫酸ジエチルで部分的に四級化した四級アンモニウム塩であり、水溶性のカチオン性高分子で皮膜形成剤のひとつだ。付着性・接着性・密着性の向上と撥水性・耐水性の役割を持つ。この「ポリクオタニウム—11」を選んだ理由は皮膚や目への刺激性が弱く、保湿の役割や、帯電防止作用もあるため、夏・冬ともに活用でき応用しやすいためだ。また、「ポリクオタニウム—11」特有の帯電作用は、肌への電気刺激を防ぎ、汚れが付きにくい作用があり、化粧品に応用しやすいものと考えられるからだ。

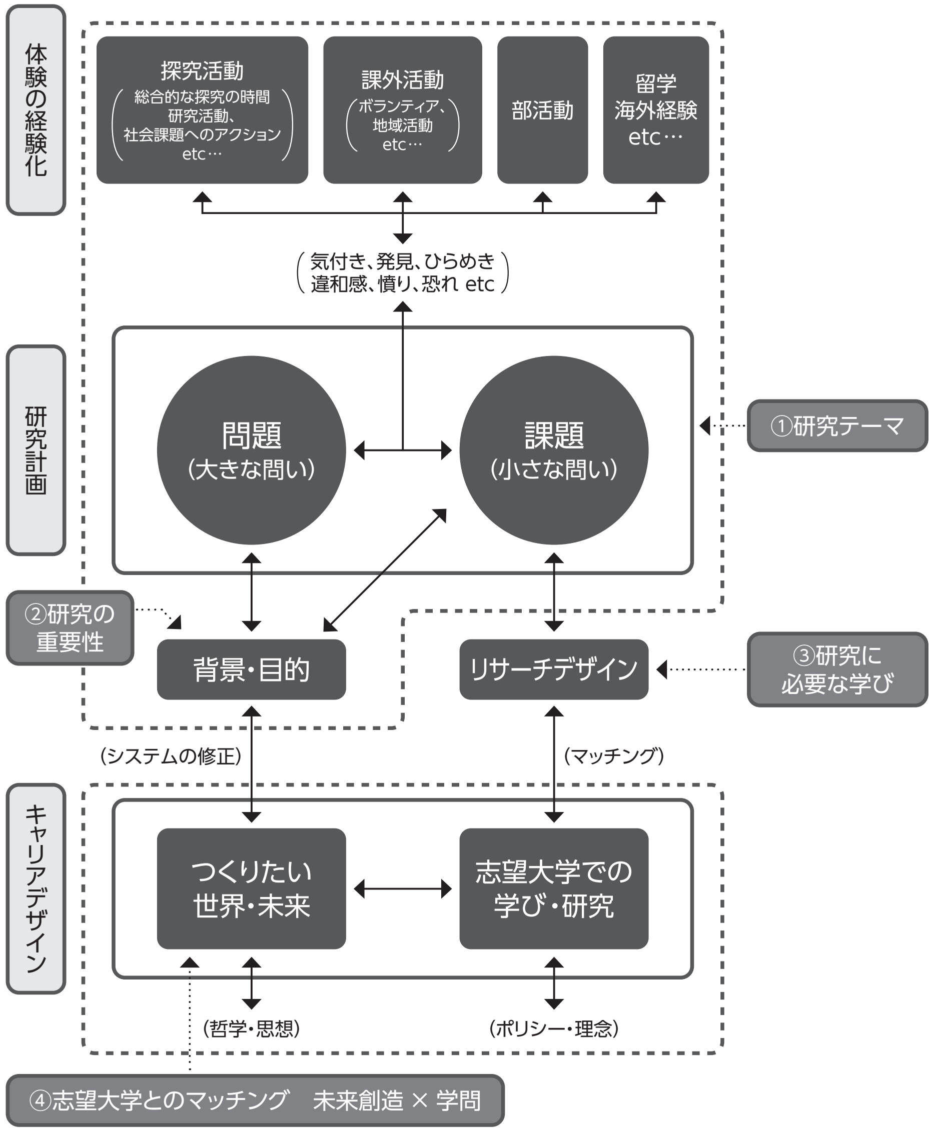
　ここからは私の仮説だが、この「ポリクオタニウム—11」に肌への負荷を最小限に抑える技術開発が、さらなる化粧品の品質向上に寄与すると考えている。これが私が貴学で研究したいことである。例えば、化粧持ちのよい保持剤は、化学物質の肌への定着時間の長期化、肌の艶の消えやすさ、発色の悪さという負の側面をもつ。この課題を乗り越える必要がある。具体的には、界面活性剤の配合により石鹸で簡単に落とす調合のあり方、美容液成分を皮膜に配合して浸透を促進する技術、紫外線に含まれる紫外線Ａ・Ｂ波を抑える成分構造の構築が想定できる。

　貴学でこれらの基礎となる物理化学、無機化学、有機化学、生物化学、分析化学の各領域を横断的に学び、化粧品開発の萌芽を得ること、特に分子構造研究に強みを持つ研究室があることに大きな魅力を感じている。私はこうした実学と理論の交差点となる研究の場を求めており、貴学は私にとって大きな学びの場になると捉えたゆえに、志望するに至った。

　私は化粧品開発技術の向上を通して、美に対する矛盾を化学によって解きほぐすというミッションを持っている。それはクレオパトラ以前から培われてきた美に対する畏敬の念と、今まで解決できなかった「美の保持と崩壊」という矛盾への挑戦でもある。それらを乗り越え、人としてより豊かな生き方を模索する支援を私はしていきたいと考えている。

生徒メモ欄

○ 志望理由構築の概念図



生徒メモ欄

教員記入欄

第3講

攻める志望理由書の思考法① 体験の経験化

チャプター1 体験したときのズレに敏感になる
チャプター2 見えない世界をのぞき込む
チャプター3 事柄が生まれるシステムを整理する
チャプター4 事象の発生は複雑で偶然が伴う

答案例を見てみよう

○ 医学部保健衛生学科志望者の答案例

　私の将来の夢は患児やその家族の人権を守る小児専門看護師になることだ。それが、貴大学医学部保健衛生学科を志望する理由である。

　中学生の頃に保育園や身体障がい児の通所施設でボランティアをした経験から、将来は福祉関係の仕事に就き、子どもに関わっていきたいと思っていた。その後あるテレビ番組で専門看護師の存在を知り、その高い専門性に裏打ちされた毅然とした姿に憧れた。

　そして今年、医療における子どもの人権について著された書籍を読んで、小児医療の現場では患児やその家族の人権に関わる様々な問題が生じていることを知った。それは患児のインフォームド・コンセントの問題であり、患児の知る権利に関わってくるものだ。また、自宅から患児の入院している病院が遠い場合、保護者が付き添うことにより、その兄弟への養育が手薄になる。付き添いの負担によって保護者自身の健康が損なわれることさえある。

　そうした問題の解決に尽力しているのが小児専門看護師であると知った。前述のインフォームド・コンセントの問題に関しても、医師らの協力も得ながら患児の年齢相応の言葉や道具を用い、患児が疾患と治療について十分理解し、納得して療養生活を送れるように工夫を凝らしている。２つ目の問題に関しても、家族からの相談を受け、個々の家族に合った生活の支援をしている。以上のことにより、私は小児専門看護師こそが患児やその家族の人権を守り、支援していく存在であると確信し、患児やその家族のＱＯＬを高める医療を提供する存在が現場には必要なのだと感じた。そして、そのような小児専門看護師になることを将来の目標と定めた。

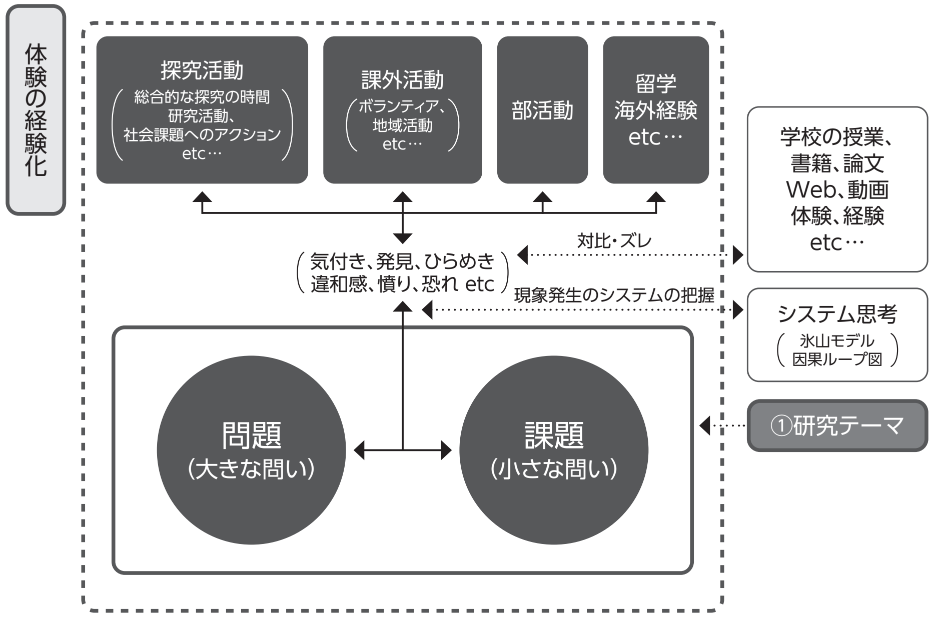
　その実現のためには看護の専門知識、技術の習得及び向上はもとより、子どもの気持ちを理解する能力や倫理的かつ法的に問題を捉え、解決する力が必要である。貴学では、その能力を得るための知識や技術を得ることが出来る。基礎看護学で看護の基礎理論、概念を学び看護の基礎能力を習得したい。さらには、看護心理学、小児看護学で子どもの心の発達や患者の心理を学び、子どもの心を理解し働きかけ、子ども自身の力を引き出せるような看護師になりたい。医療人間学概論で医療現場における、倫理的かつ法的に問題を捉え解決する能力も身に付けたいと考えている。

　貴学は看護の基礎を学ぶと同時に倫理、法についても幅広く学べる理想的な場であり、私にとって最高の学習環境であると確信している。

以上が、私が貴学への入学を志望する理由である。

生徒メモ欄

○ 志望理由構築の概念図



生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター1

体験したときのズレに敏感になる

○思考のためのアクションとスキル

思考のためのアクション	思考のためのスキル
・情報を手に入れる ・順番を考えて系統化する ・変化をとらえる ・ある特性に着目する ・定型化する ・視点変更する	・知識 ・分類 ・具体 ・抽象 ・関係 ・因果 ・類似 ・対比 ・推論 ・類比

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター2

見えない世界をのぞき込む

○氷山モデル

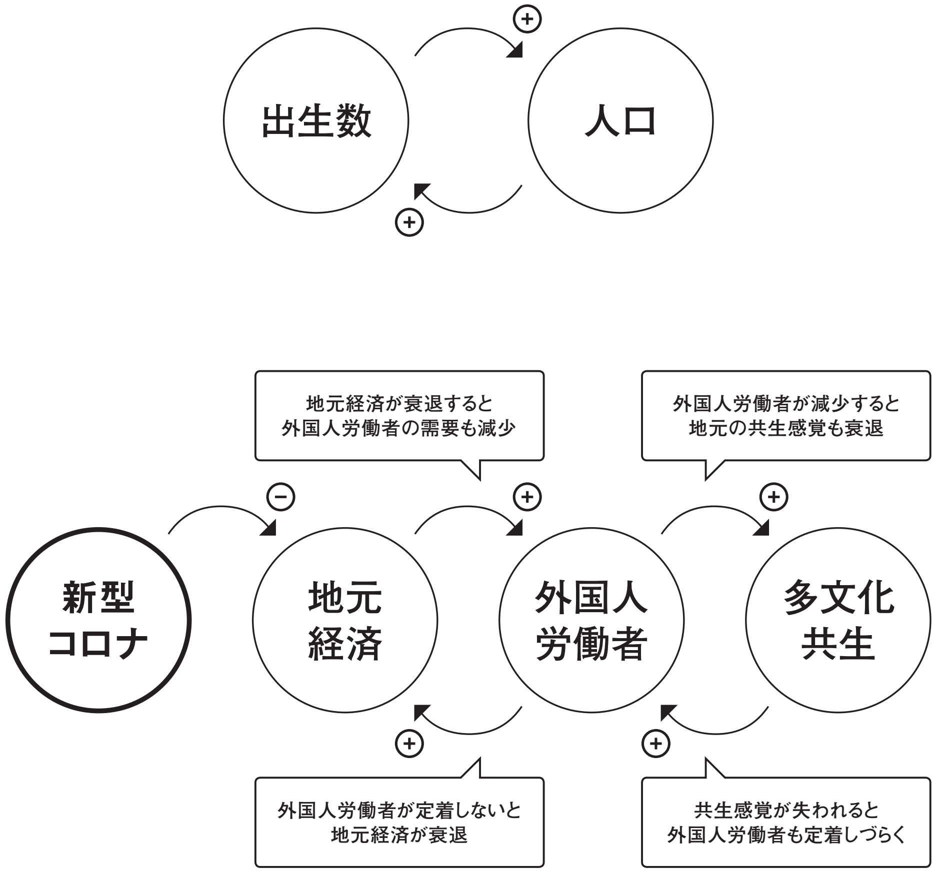
生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター3

事柄が生まれるシステムを整理する

○因果ループ図



(＋)または(ー)の記号について
(＋)は、原因が増えたときに結果も増える、もしくは、原因が減るときに結果も減る際に付します。
(ー)は、原因が増えたときに結果が減る、もしくは、原因が減ったときに結果が増えるときに付します。
単純に(＋)が増える、(ー)が減るというのは誤りですので、注意してください。

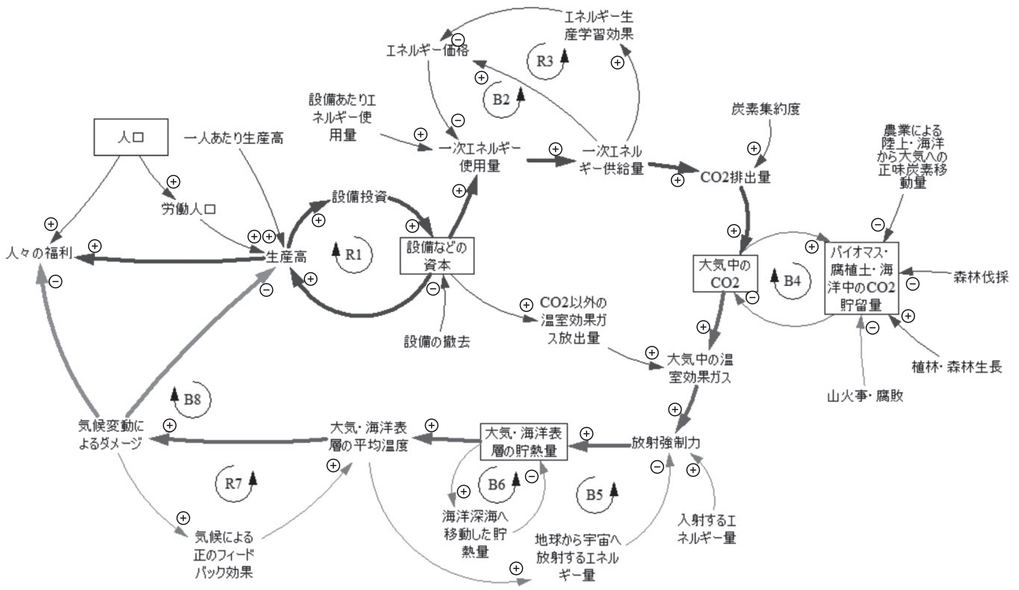
生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター4

事象の発生は複雑で偶然が伴う

○人間の活動によるCO2排出量が炭素循環・気候システムに与える影響
　および気候システムが人間の福利や経済活動に与える影響



[原典] Feedback Complexity in Integrated Climate-Economy Models by Thomas S. Fiddaman 1997 Massachusetts Institute of Technology
ループ図　「気候変動をシステム思考で考える(1)」　小田 理一郎　https://www.change-agent.jp/news/archives/001354.html

生徒メモ欄

教員記入欄

第4講

攻める志望理由書の思考法② 研究計画

チャプター1 リサーチクエスチョン
チャプター2 リサーチデザイン① 研究のプロセス
チャプター3 リサーチデザイン② 理論の発展段階
チャプター4 リサーチデザイン③ 論文の探し方・読み方

答案例を見てみよう

○ 政治学科志望者の答案例

　外国人労働者の増加とともに、共生するコミュニティをどう形成するかという課題を、各自治体が抱えている現状にある。外国人住民や労働者への明確な方針を持てない状況の日本において、対症療法すらもままならない現状もあるのは了解した上で、その立場からこの問題をどう解決すべきかを模索する場として、貴学政治学科が相応しいと判断し、志望するに至っている。

　この気づきを得た最大の契機は、県が主催するホームステイプログラムへの応募である。ここ数年、私が住む地域近辺にも外国人が定住するようになり、外国人とのコミュニティ形成が必要となる局面にあると考え、私は彼ら彼女らとより良い共生社会を目指すために移民大国であるアメリカの地に留学しようとした事があり、その最終面接でのやり取りが深く印象に残っている。その際、面接官からある国の移民政策について意見を求められ、私は移民拒否政策は反対であると主張した。しかし、面接官から「君は『国境に壁のある街の住民』についてはどのように考えるのか」と問われ、彼女から国境壁建設が多数に支持されている現実を突きつけられた。私は答えに窮した。いま改めて振り返ると、移民とともに生きる住民の視点を欠く政策立案など、民主主義を尊重する者としてあり得ない。私は安物の正義感とメディアの報道に踊らされ、その地に生きる住民を取り巻くシステムや、その根底にある価値観を覗き込むことがなかった。そのとき、私自身を恥じた。

　国境壁に対する反応は、移民優遇と白人労働者の軽視という政策に対する住民の不満が根底にあるという。これを私の住む地域の外国人労働者と住民に置き換えて推論を展開すると、前者を哀れ慈しむだけでは水面下に広がる問題をすくい上げることはできないということだといえる。その土地に住まう人々には文脈、歴史的背景が横たわっている。その環境の中に、外国人労働者が入り込むという構図である。そうしたステークホルダーが混在する中で、いかにともに幸せなコミュニティをいかに形成するかということを、丁寧に文脈を紐解きながら政策に反映しなければならないということである。ゆえに、私はこのコミュニティと地域社会、行政の関わり方の３つの関係を俯瞰する事こそが共生社会への鍵となると考えた。

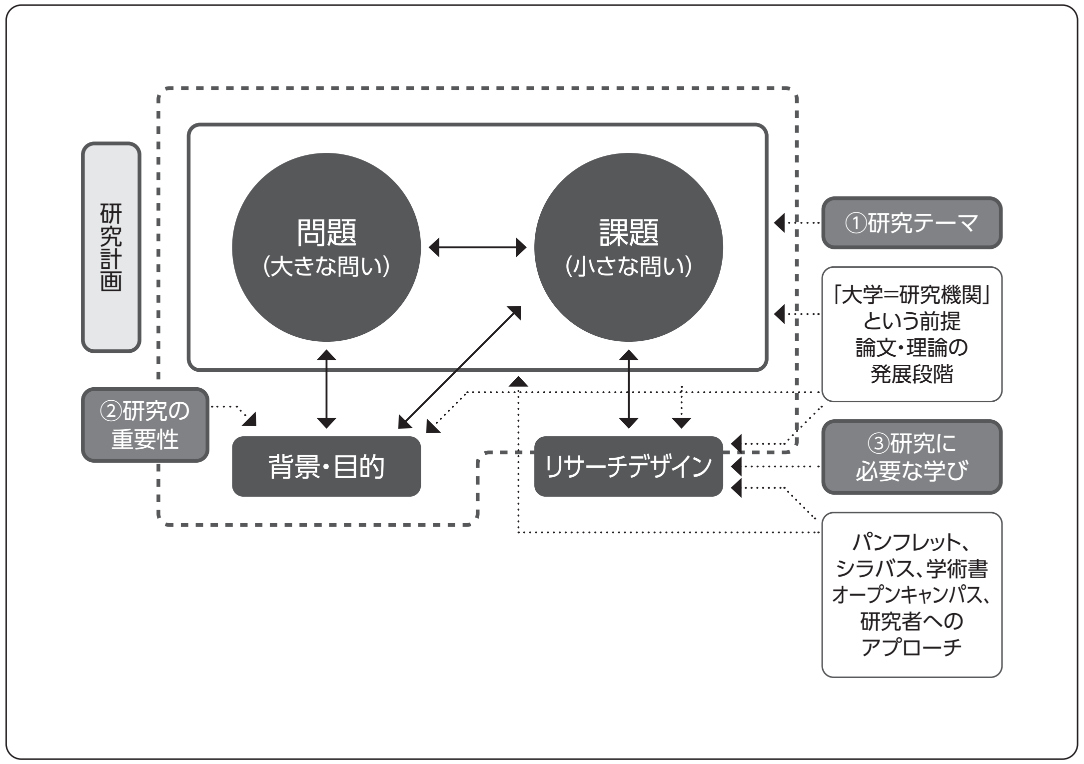
　ただ、言うは易しとはまさにこのことであり、エスニックコミュニティが地元社会の住民として受け入れられるのは難しい。例えば、〇〇市〇〇地区では外国人たちと長年に渡りその文化を共有してきたといわれ、上記の好例と言われている。近年ヘイトスピーチによるデモが押し寄せたそうだが、地元住民らがデモ隊と対峙し生活の場を守ったことは地方自治体とエスニックコミュニティ及び地元住民の三者が良好で堅固な結びつきを持っている証拠である。しかしながら、現在では他国からの流入者も増え、新住民が流入するようになった。昔なら町を歩けば困窮状態が可視化され、コミュニティの中で互助できたものの、開発によって人々は分断され、問題が見えなくなっている。地域全体で一体感が醸成されていたのは昔の話であり、今では孤立状態になっているということだ。

　こうした分断と排除の論理が働き、マイノリティとなりがちな外国人労働者に対して、セーフティネットを地域で構築することこそ、私が貴学で研究として取り組みたいことである。特に、前述した通りエスニックコミュニティすら分断されるという事態があることを踏まえ、外国人労働者が置かれる状況を推察すると、深刻な問題と化していることが容易に想像できる。外国人労働者と住民の共生を目指していくには、このコミュニティの分断という事態をどう超えるのかが大きな課題となる。この課題観を外国人労働者と地域住民によってどう乗り越えるのかを模索し、行政学・政治学・社会学的視点で捉え直す試みを、貴学で行いたいと考えている。具体的にはさまざまなエスニックコミュニティを観察・記述し、地元社会と行政の関わり方を探るとと

もに、外国人と共生する良いコミュニティのあり方を学びとりたい。
　私は、外国人労働者を地元社会に所属させながらもそのアイデンティティを守る方法、特に行政活動にどう反映させるのかの方法を模索したい。私が住む県には２万人の外国人労働者が存在する。特に、農漁村部での深刻な人手不足に頭を悩ませている。他方、このコロナ禍において職を失う外国人労働者も生じ、不可抗力によって生活が不安定になり、彼ら彼女らの生活基盤が脆弱であることが露呈する事態となったが、第一次産業の労働者は不足したままである。もちろん行政が第一次産業保護という名目で農林水産業従事者に措置を講じることも重要といえる。しかし、それ以上に大事なのは彼ら彼女らを「地域でともに生きる者」として、コミュニティの一員として支え合う関係性を構築することなのではないか。私は、外国人労働者と一括りに考えるのではなく、一人一人のアイデンティティを大切にしながら共生の道を探っていきたい。

生徒メモ欄

○ 志望理由構築の概念図



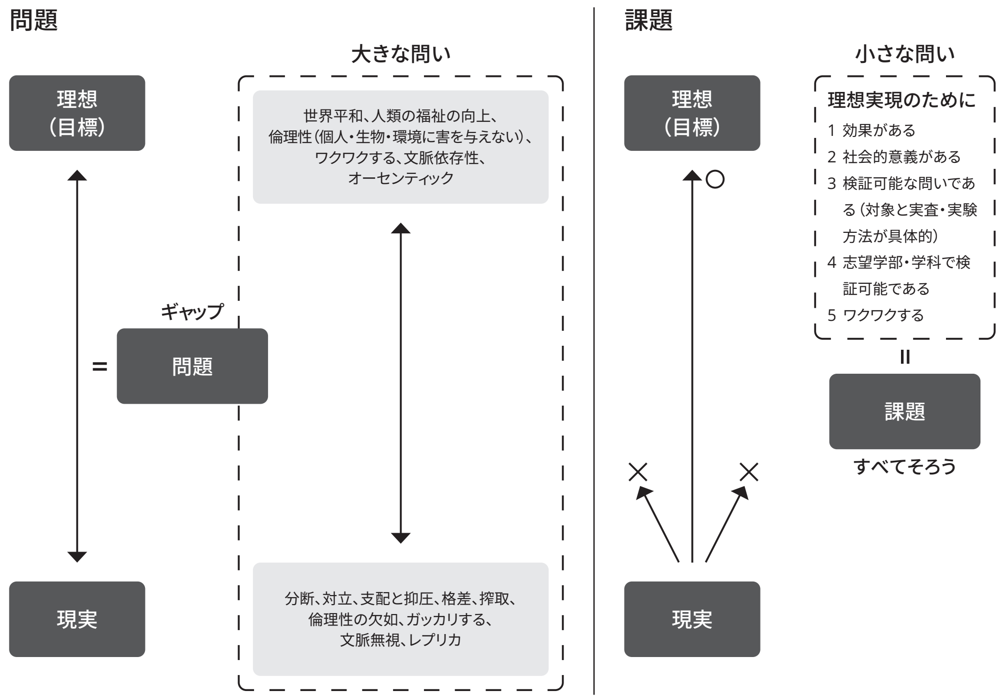
生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター1

リサーチクエスチョン

○大きな問いと小さな問い



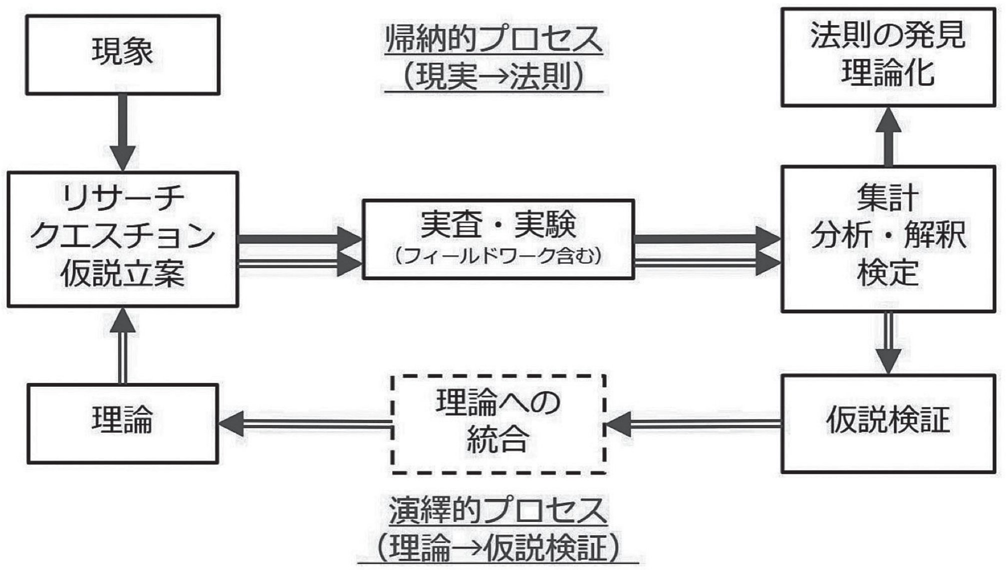
生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター2

リサーチデザイン① 研究のプロセス

○研究のフロー



岩永 雅也、大塚 雄作、高橋 一男著『社会調査の基礎』放送大学教育振興会（2003）をもとに加筆・修正

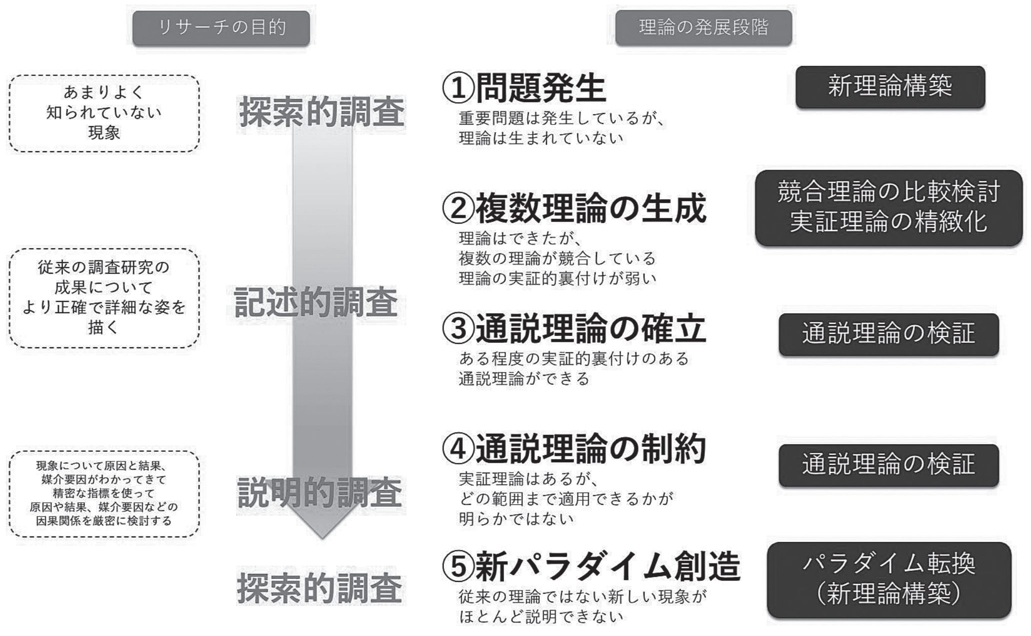
生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター3

リサーチデザイン② 理論の発展段階

○リサーチの目的と理論の発展段階



田村正紀『リサーチ・デザイン』第1章リサーチ・デザインとは何か,P12、田尾・若林『組織調査ガイドブック』P29-31　を参考

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター4

リサーチデザイン③　論文の探し方・読み方

○CiNii

ホーム画面
(https://ci.nii.ac.jp/)

論文検索結果の
画面

論文
(機関リポジトリ)

生徒メモ欄

教員記入欄

第5講

攻める志望理由書の思考法③ キャリアデザイン

チャプター1 志望先での学び・研究① リサーチデザインとの接続

チャプター2 志望先での学び・研究② 学修計画

答案例を見てみよう

○ メディア社会学科志望者の答案例

　人々が幸せを感じて生きていくためにはどうすればよいのか。現代に生きる私たちは、常に時間に追われ将来に対して大きな不安を抱えながら生活しており、安心した精神状態を確保した生活は維持できていないように見える。私は、人々の幸福感を向上させるために何が必要か、社会学的、歴史文化的及び心理的側面から考察を深めるために貴学で社会学、特にメディアとこころとの関係性について学びたいと強く思う。

　まず、日本を取り巻く社会状況について見ていきたい。日本の社会は、戦後の高度経済成長を経て、所属する会社組織を基盤とする経済的かつ雇用環境的な安定を重要視していた。そして、組織の規律に反する行動を取らない限り、年功序列や終身雇用が約束された。そのため、会社組織への帰順意識が強く求められると共に、失敗やそれに伴う減点の恐れが新しい挑戦を妨げる環境が根付いてしまった。そうした状況の中で会社中心の安定した環境が生活の中心となり、困った時に近所等で助け合うといった相互扶助は日本では必ずしも必要ではないと見なされるようになり、日本旧来の地縁、血縁、及び地域共同体による相互扶助は崩壊し、それには頼らない個人主義的な生活が目立ちつつある。このような社会状況の変化が、人々の抱く幸福感に大きく関与しているように思う。

　私は、中学入学前の３年間を英国で生活していたが、その際、高齢のイギリス人女性が隣で一人暮らしをしていた。その女性は毎週通っている教会を通じて慈善活動をしており、日々の生活に生きがいを感じとても幸せそうに見えた。イギリスを含む欧州諸国は、教会などの地域共同体が現在でも社会に深く根付いており、人々の幸福感の向上に関係しているものと思われる。一方で、日本の地域共同体による相互扶助の崩壊は、人々の幸福感に何らかの負の影響をもたらしていると考えられる。

　また、私は中高６年間運動部に所属していたが、その部活は学内で最も上下関係が厳しいと言われており、先輩の指示には従わなければならないということが暗黙のルールとなっていた。大会出場にあたって、私は自分の役割が先輩の求める方向性と異なると感じた場合でも、正直に話してしまうとレギュラーを降ろされるのではないかという不安から自分の気持ちを押し殺してしまった。この時、私はより良い方向性にしたいが反抗してよいのかという葛藤が大きなストレスとなり、本来楽しいはずの部活動にもかかわらず、幸福感を得ることはできなかった。このことから、組織の規律に従う行動は、自分の意志に反して無理に行う場合、ストレスを感じ幸福感が得られないということが分かった。

　ある学者は、現代を生きていく上で「認知的柔軟性」を身に付けることが重要であり、それが低い人はストレスをためやすく、モチベーションを上げることが難しくなると主張する。「認知的柔軟性」とは、新しいものや異質なもの、失敗などを受容することに伴う不安や恐怖といったストレスとうまく折り合いをつけ、これを新たな機会や学びのチャンスとして捉える脳の機能をいう。今日の日本の現状である地域共同体による相互扶助の崩壊に伴う会社組織への帰順は、自分の考えや主張を押し殺すことでストレスがかかるとともに、地域共同体による助け合いだけではなく、個人主義に基づく殺伐とした対応を重視していくこととなり、「認知的柔軟性」が欠落していく要因になる事が多いと考える。よって私は、「認知的柔軟性」を身に付けていくことが変化の激しい時代を生き抜き、幸せと感じながら生きていく鍵になると認識している。

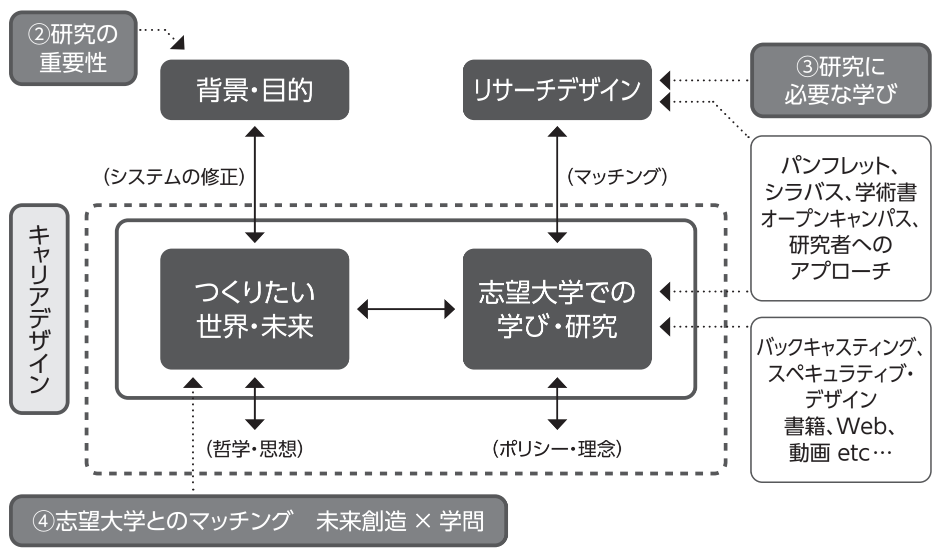
　そのため私は、「認知的柔軟性」に関わる環境因子について、社会学的等の側面から考察しながらフィールドワークを通して地道に調査活動を重ねる必要があると考える。特に私の関心ごとであるスポーツやメディア、心の関係性について解き明かす場を求めている。これを行う場合、貴学の〇〇教授はメディアによる外傷性記憶を研究テーマとしており、私が理想とする「認知的柔軟性」の習得手法を探る際に、

メディアが与える心理的影響を探る上で必要な観点を学ぶことができると感じている。また、今後はグローバル化の進展につれて、メディアが伝えるメッセージに解釈の相違や、それによる摩擦を引き起こすことも懸念材料となる。国際コースでの学びを通して、そうした諸問題を引き受け、国際的かつ多面的な視点を養いたい。

　そして将来は、「認知的柔軟性」に関わる環境因子を明らかにした上で、幸福感を持つ事ができていない国内外の人々への支援を目的として、多くの人々が利用するテレビやインターネット、新聞などのメディアを通して発信していく担い手になりたいと思っている。そのために貴学社会学部メディア社会学科への進学を強く希望する。

生徒メモ欄

○ 志望理由構築の概念図



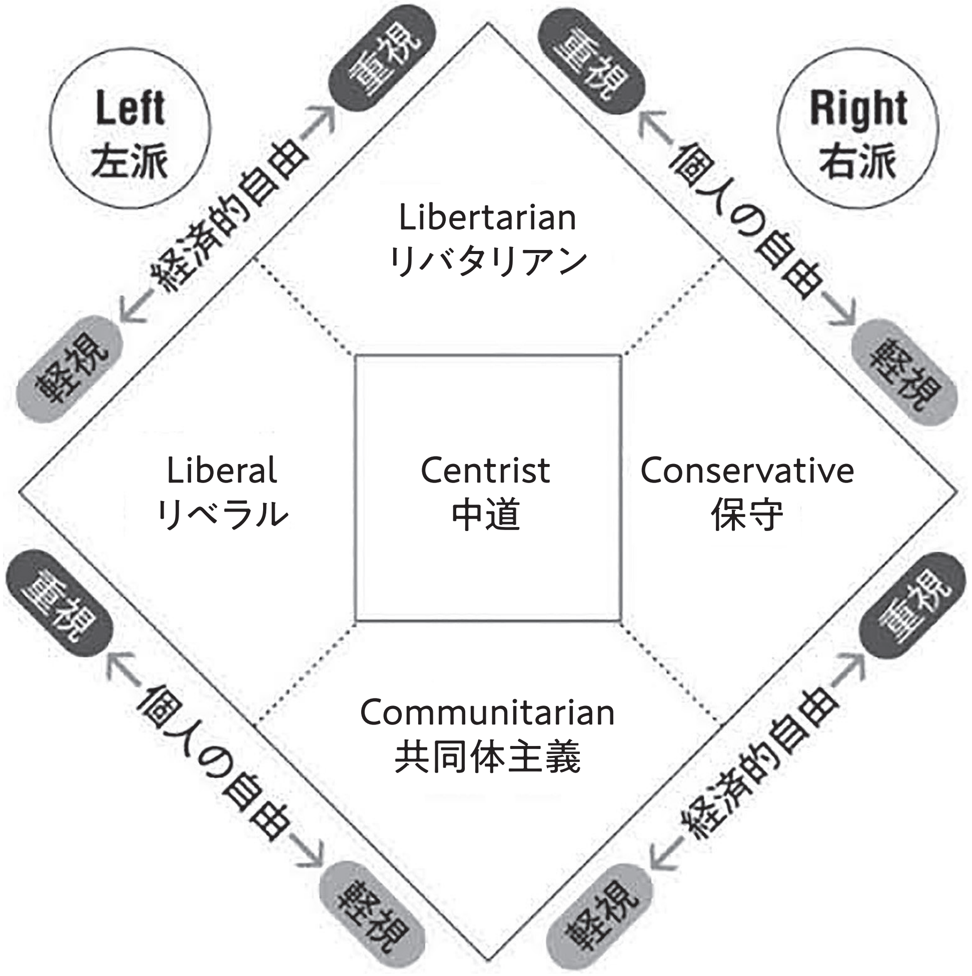
生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター3

つくりたい世界・未来① 多様化する世界と向き合う

○ノーランチャート



渡辺靖『リバタリアニズム-アメリカを揺るがす自由至上主義』(中公新書)p.83の図版をもとに加筆・修正

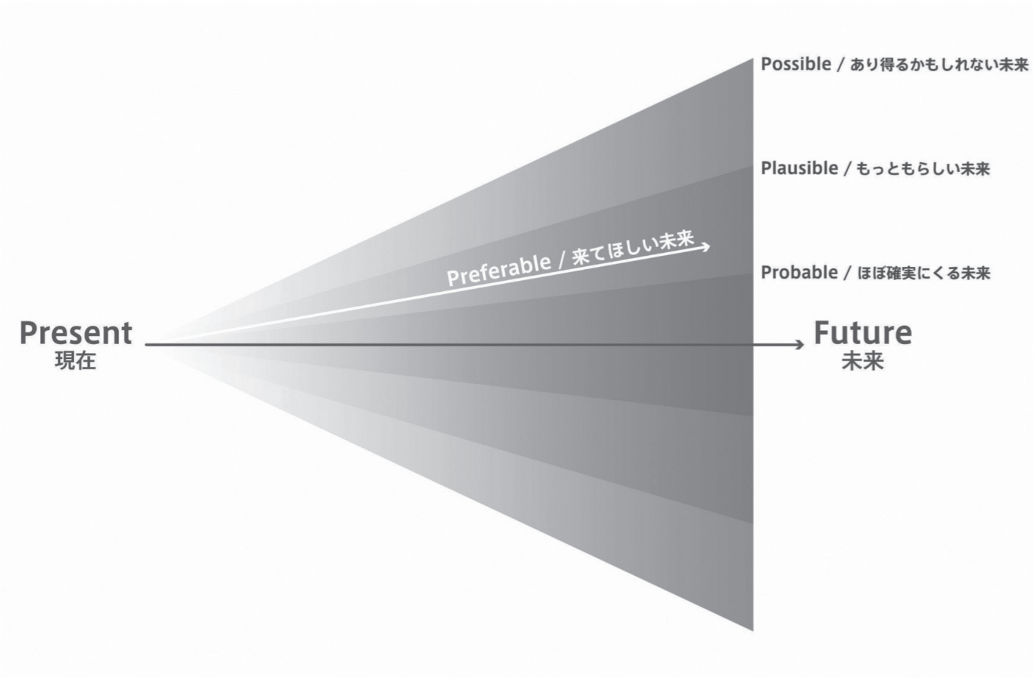
生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター4

つくりたい世界・未来② 来てほしい未来

○スペキュラティブ・デザイン



各務 太郎 「図 フューチャーコーン」

生徒メモ欄

教員記入欄

第6講

合格者の志望理由書から学ぶ

チャプター1 実績があるとき① 実績の活かし方

チャプター2 実績があるとき② リサーチデザインと志望大学との調整

答案例を見てみよう

○ 環境情報学部志望者の答案例

　私は、災害時に状況に応じた行動をとれる住民を増やすために、地形や自然を地理学・環境学から学び、「共助」の力で命を守る地域を作るための防災学を研究したいと考えている。

　私は救命の知識を持っていたにもかかわらず、交通安全ボランティアの高齢者が突然死してしまったという経験から、高校生活で人の命を救うためのプロジェクトを行った。そして、市と協力してＡＥＤを年間80台ずつ設置する成果を出し、○○○○○○○○全国大会でファイナリストに選出された。自分の活動を振り返ってみると、救命だけではなく、災害から市に住む人々の命を助けられるのではないかということに気づくことが出来たように思う。また、ＡＥＤ設置活動は継続するが、更に多くの人の命を救えて必ず発生する災害から市民の命を守りたいと願うようになった。

　きっかけは、大雨・洪水警報だけでなく避難勧告・指示（命令）も発令された台風19号である。このとき届いた避難指示のメールに記載されていた避難場所が自宅よりも河川に近い中学校であったことから、避難するべきか否かを悩んだ経験から、防災に興味を持った。

　私が住む市は山地と丘陵地帯に囲まれていて、様々な災害が発生しやすい。加えて、平均的に川幅が狭く、○○川から16の河川が枝分かれする源流都市で、合流部が多いことからバックウォーター現象が発生しやすく水害が多い。○○○市は地形的影響で土砂災害警戒区域に指定されている箇所が県の３分の１を占めている。

　また、ＡＥＤの設置をするプロジェクトで気づいた課題は、○○○市の高齢者率は25％に対し、私の周辺の町では更に15％高い40％であり、2045年の○○○市は高齢者率が40％近くなると予想されているという事である。そのため、災害が発生した場合に世代ごとの避難となってしまうと高齢者の方々が逃げ遅れてしまい、命を奪われてしまう可能性が高い。また、高齢者はスマートフォンを所持する人が少なく、避難すべき基準の判断が難しい山の中に住んでいる人は、防災行政無線を聞く方法しかないにも関わらず大雨の音で放送がかき消されてしまうことがある。誰もがわかりやすく、すぐに行動できるような情報発信が○○○市の課題である。

　防災教育の面では、○○○市の学校では月に１．２回程度火災、不審者、地震の訓練が行われているが、水害や土砂災害が発生した場合の訓練は行われていない学校が多い。また、それぞれの町で消防団と協力した防災訓練が年に１度開催されているが若い世代の興味関心は低く、参加者は少ない。だからこそ世代を超えた防災訓練を行うことで、若い人の救助や運搬などの力と高齢者の知識をつなぎ合わせることが重要だと考える。

　そこで、私はすべての問題を解消する防災プログラムを起案したい。まずは、市区町村規模で被害状況に合わせてとるべき行動がわかりやすく記載されている、危険な場所の写真やコメント付きのハザードマップを地域の学生たちと協力して作成したい。

　そして、小学校では、高学年は地域住民と協力して救助訓練や避難誘導など、自ら行動出来るリーダーを育てる授業、低学年は防災に興味関心を持つためにフィールドワークを行い、各自の防災に関する考えを育むための授業を作り上げたい。防災工事を行い被害を抑えることは簡単だが、莫大な費用と長い年月が必要なため、○○○市を地理学・環境学の視点からソフト面で研究し、水害・土砂災害・地震時にどのように対応すれば人の命を救えるのかを調査をしたい。また、防災行政無線の課題についても調査を行いたい。

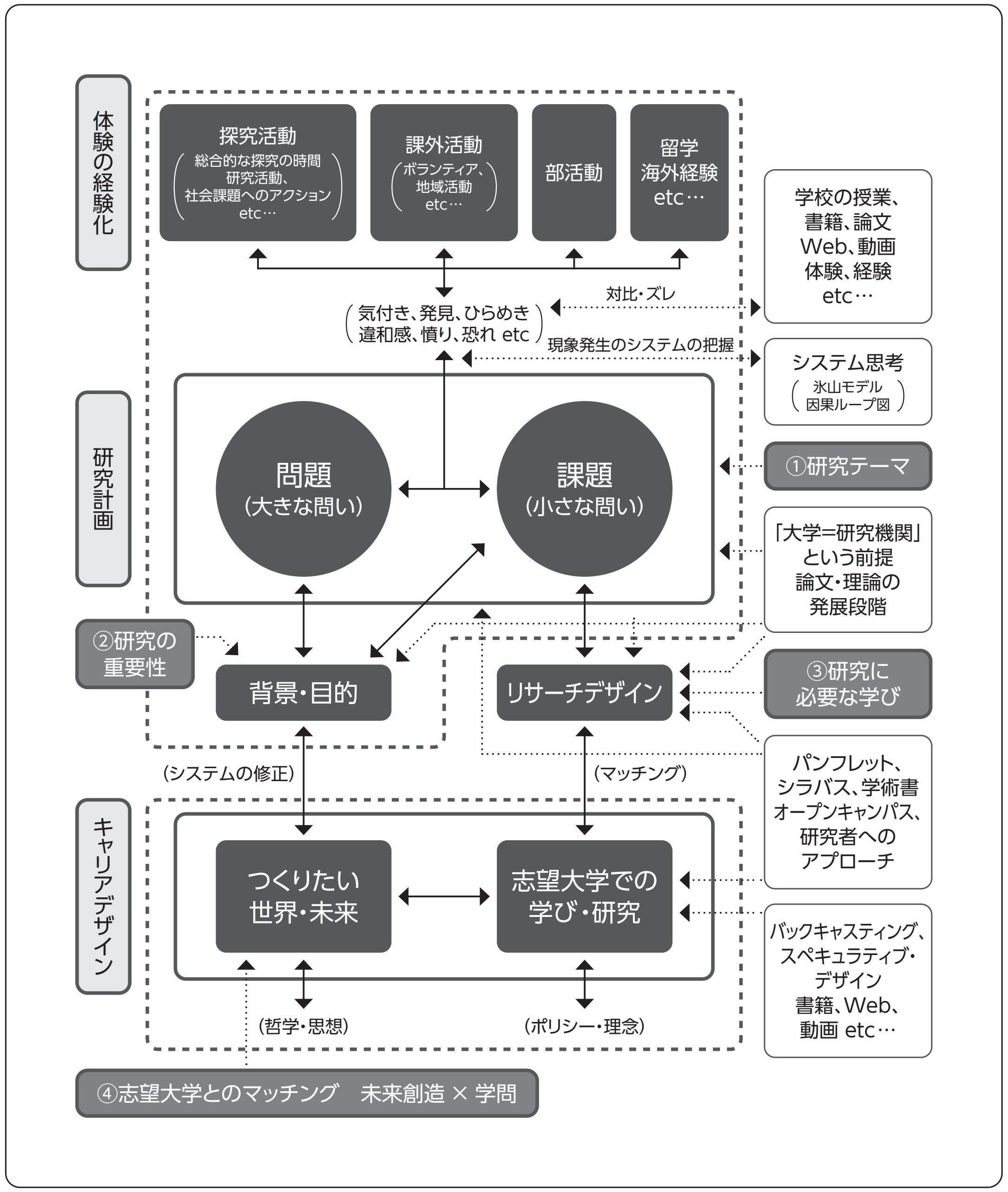
　そのために、小中学校の生徒と地域住民が協力してフィールドワークやグループワークを行うことが、授業導入へのファーストステップになると考える。また、その成果を発表し合うことで、防災意識の向上だけでなく、コミュニケーション能力の向上にも繋がり、互いに助け合おうとする「共助」の心も育まれると考える。そして、２つの研究結果を踏まえて、高校での活動でお世話になった市議会議員の方にさまざまな提案をするとともに、○○○市の課題を解決するためのツ

ールやイベントを卒業プロジェクトとして制作したい。防災と救命の行動プランの研究と同時に、最終的には「共助」の力によって命が失われないためのコミュニティをつくりたい。プロジェクトを行う中で出会った地域の人の個性や特性が、コミュニティデザインにおけるリーダーとして活かされ、住民のコミュニティに対する帰属意識や愛着の形成につながり、それによって主体的に他者に貢献したいと考えるようになるという「貢献の理論」を、高校で行ったプロジェクトを用いて検証していく。そして、多くの人が地域に貢献する体験をし、それに対して自己効力感を得ることでコミュニティの課題達成へと努力し、共有する場を作ることでコミュニティをより強固にする過程を、フィールドワークを通じて検証する。このような演繹的方法によって、私は、コミュニティデザインの理論を確立する。そのために、AED設置活動の継続と防災教育活動を率先して行っていく。

　このような研究を私は〇〇〇〇教授のもとで行い、まずは一人でも多くの住民の命を救いたい。また、成功した事例を高校生活で行った救命活動と組み合わせて、貴学から日本全国の人の命を災害から救うために、貴学環境情報学部を志望する。

生徒メモ欄

○ 志望理由構築の概念図



生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター3 特筆すべき実績がないとき① 体験の経験化への工夫
チャプター4 特筆すべき実績がないとき② リサーチデザインの工夫

答案例を見てみよう

○ 文学部ドイツ語圏文化学科志望者の答案例

　昨今、改めて平和の大切さが見直されている。私はトーマス・マンの生き方を研究し、批判的思考力・問題解決能力を身に付けたい。マンの批判的思考と平和への思いは、現代社会において、最も大切な視点だと考える。マンを正しく理解するために、彼の作品を通してドイツ語圏の多様で複雑な歴史・文化的背景を知り、人類の平和について理解を深めたい。

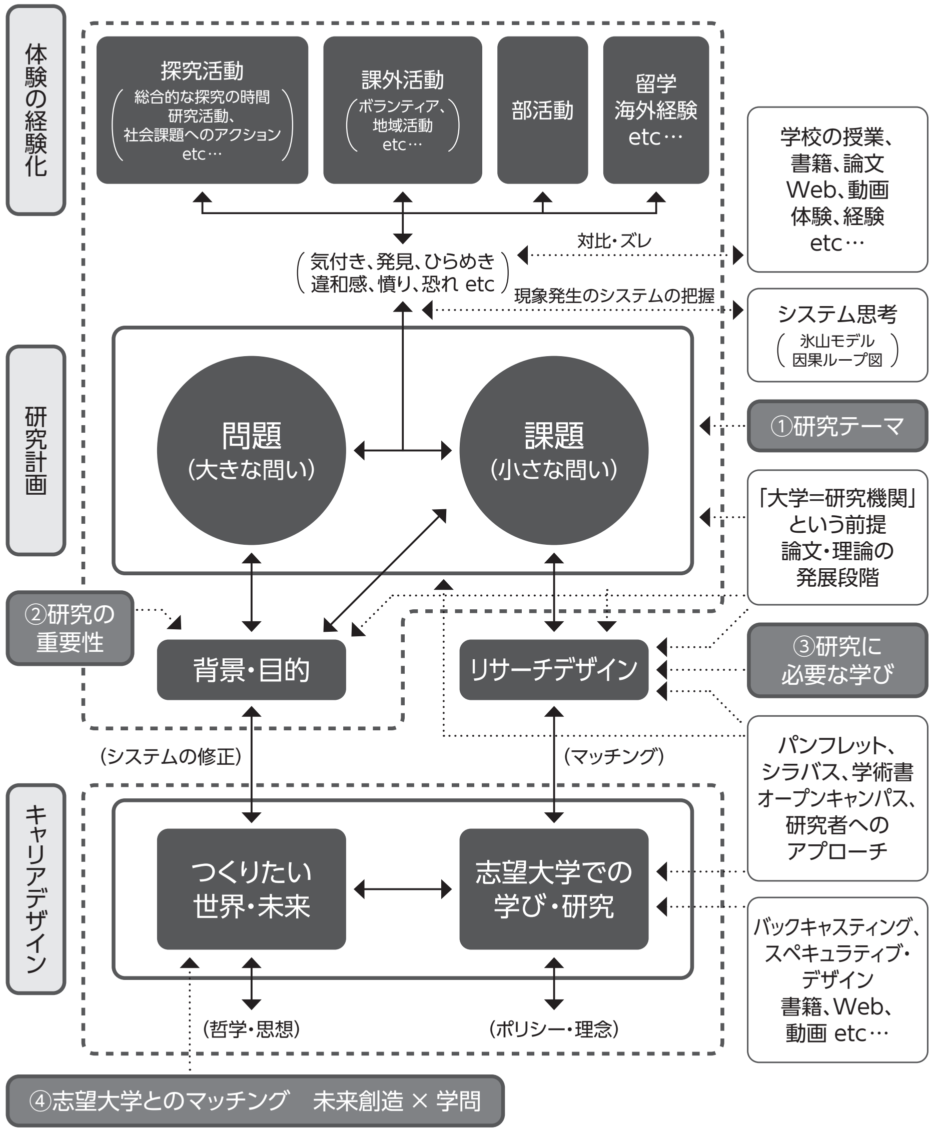
　私がトーマス・マンに関心を抱いたのは中学２年生の時に読んだヘルマン・ヘッセの作品、『少年の日の思い出』との出会いがきっかけである。その時、ヘッセと同時期に活躍したトーマス・マンの作品に触れる機会があり、二人には多くの共通点があることが記憶に強く残っている。二人ともギムナジウムを中退し、仕事も上手くいかず、自らのその体験をもとにした作品を執筆している点や二度にわたる世界大戦を体験している点、ノーベル賞を受賞した点等が挙げられる。

　しかし、二人の生き方には大きな違いがある。ヘッセは自分の内なる世界を見つめ、内面を深めていく生き方をしていた。それとは対照的に、マンは外の世界を冷静に見つめ、絶えず社会と深く関わる生き方をしていた。また、第二次世界大戦中のナチスドイツの体制下でも、自分の指標を失わず、当時の社会を冷静に見つめ、その危険性を警告し、伝え続けていた。加えてマンは、権力に迎合せずあくまでも冷静に未来を見据え、個人の意見として自分を偽らず、正しいことを訴え続けた。私はマンのこのような生き方に感動し、もっと深くマンについて学びたいと思った。権力者や特定の団体による偏った判断に、民衆は流される傾向が強い。特に暴力・戦時下においては、命令に従ってしまう弱さを持っている。そうした状況下で求められる力とは、マンの様な冷静な分析力、探究力、思考力、行動力ではないか。マンの研究に魅力を感じたのは、現代社会の問題を発見し、解決策を自分自身で創出し、実践できる行動力の根源が明らかになるという期待があるからだ。世俗に流されることなく、偏見や固定観念を払拭し、現状を正しく見る力を養うために、私はマンをより深く研究したい。

　そして、私は「現代社会における問題発見・解決能力」「自己表現力」「国際感覚」の醸成を目指す〇〇大学文学部の姿勢に共感している。加えて、トーマス・マンが影響を受けたという、ワーグナーゆかりの音楽祭の町、バイロイトへの留学も魅力的だと感じている。そして、トーマス・マンの文学作品を研究されている〇〇教授がいらっしゃる。私は〇〇教授の下でトーマス・マンの作品の理解を深め、日本そして世界の平和の担い手として活躍できる存在になりたい。そのためにドイツ語の運用能力を高め、国際感覚を磨き、見識を広めていきたいと考えている。

生徒メモ欄

◯ 志望理由構築の概念図



生徒メモ欄

教員記入欄

第7講

自己アピールの必須要素

チャプター1　自己アピールの要素①　自分の特性
チャプター2　自己アピールの要素②　アドミッション・ポリシーとの適合
チャプター3　自己アピールの要素③　過去の成長物語
チャプター4　自己アピールの要素④　未来に向けた成長プロジェクト

答案例を見てみよう

○ 答案例①

　多くの意見や視点をもとに、適切な解を導く姿勢が研究活動では欠かせない。私は他者の価値観を受け入れる努力を通して、こうした大学への学びに備えてきた。

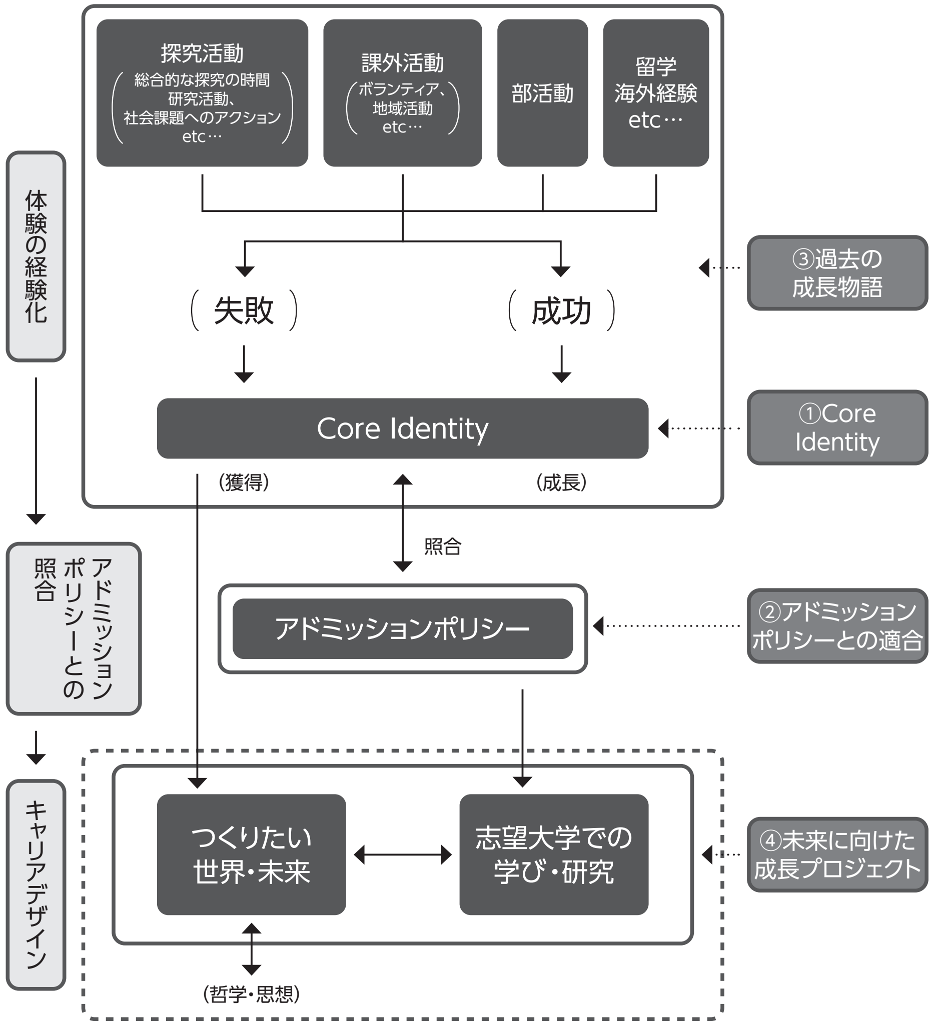
　この力を身に付けることができたのは、吹奏楽部で副部長と部長を歴任したことによる。我が部では意見を一方的に述べる上級生と反感を持つ下級生の間で軋轢が生じていたため、私が部長になった際に、意見を聞くときに部員全員へのヒアリングを行った。演奏する曲の候補選択、パートリーダーや学生指揮者の選定、練習メニューの決定などのヒアリングをして、その結果を必ず一人一人に伝え、そうなった理由も添えた。また、相手の価値観を否定することのない表現を心がけ、相手に寄り添う気持ちで取り組んだ。おかげで一度も部の方針で対立を生まず、部員が1人も欠けずに引退を迎えられたことは私の誇りである。

　価値観を大切に思いながら傾聴すると、相手の意見を感覚的に判断しなくなる。相手の気持ちを理解する心の余裕も生まれる。一方、決定した事柄に不満を抱く人には、決定の理由をきちんと説明することもできる。加えて部員が意見を正当に述べる機会を設け、結果に納得できる環境を整えることもできるようになる。多くの人々が異なる意見を持つことを理解し、それらを一度受け入れ、客観的にその意見を判断することは、共生社会を築くうえで非常に重要であり、求められる思考であると考えている。

　将来、私は○○大学法学部政治学科を志望しているが、政治課題の検討には他者の価値観を受け入れることが必ず求められる。異なる主張を持つ人々の意志やその主張の背景まで理解するように努めることで、事柄を客観的に捉えるとともに、民意を正確に把握することができる。私は、政治課題を多面的に捉える力を貴学で鍛え続け、民意が反映された政治が行えるように成長したい。

生徒メモ欄

○ 自己アピール構築の概念図



生徒メモ欄

教員記入欄

第8講

攻める自己アピールの思考法

チャプター1 Core Identity① 8つの知能

チャプター2 Core Identity② 組織の中の自分

チャプター3 Core Identity③ 自己を表すキーワード

チャプター4 おわりに

予習をしよう

自己アピール文を作成してみましょう。字数は問いませんが、志望校で求められる字数に合わせて論じてください。志望校が決まっていない場合は、800字以内でまとめましょう。

答案例を見てみよう

○ 答案例②

　私は中学・高校において演劇部で６年間活動を続け、バングラデシュ協会で貧困の子どもたちを支援する活動も行ってきた。その中で、特にマイノリティの意見を拾い上げることを意識してきた。私はマイノリティの意見に気付き、拾い上げることを得意とする。そうした行動ができる事を自らの強みとして、貴学を志願する。

　私は部員と良き仲間であり良きライバルとして意識し合い、成長してきたが、他方で部活動では物事を決める際には、声の大きい者や多数派の意見が優先されがちだという課題感を持った。そうした中で、私は少数派の意見や後輩が発した声に気付き、先輩としてその意見を拾い上げてきた。たとえ自分と異なった意見でもそうした声をきちんとくみ取り、１人１人の意見が舞台に反映されることの重要性を見出した。このような柔軟性を身につけると同時に、日々舞台研究に励み、挫折を乗り越えることで培った精神力の強さをアピールしたい。周りのレベルについていけず取り残される孤独感、オーディションに落ちて役がもらえなかった経験、本番前日に骨折して出演できなかった辛さ、思い通りに良い演技ができない悔しさ等、多くの経験と挫折を乗り越え、主役をもらうまでに成長した。

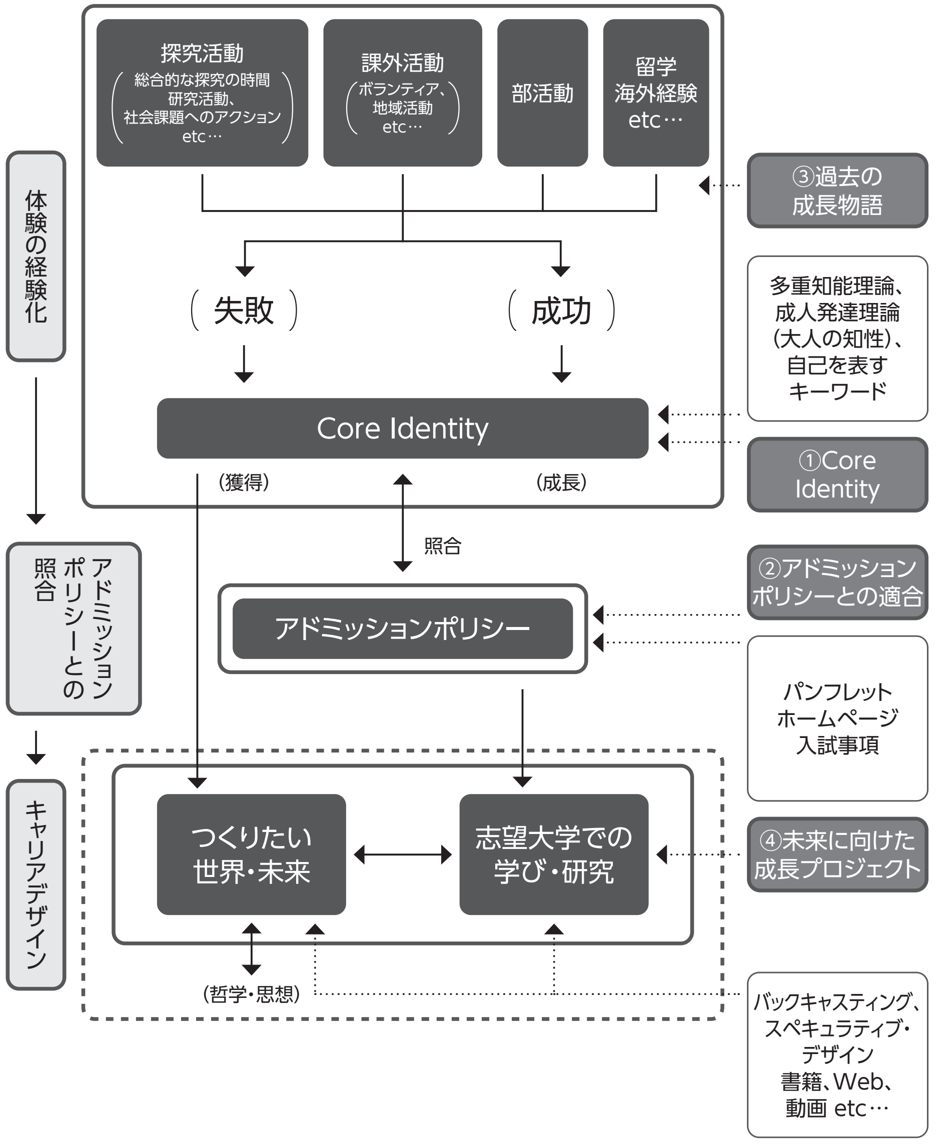
　他方、高校でのバングラデシュ協会との出会いも私の視座に影響を与えた。鉛筆１本、ノート１冊すら持たず、学校に通うことができない異国の子どもたちの現実を知った。そうした環境の中で高所得者に搾取され、困窮した生活を強いられる貧困層やその末端で教育すら受けられない子どもたちを目の前にした。基本的人権の尊重を謳うバングラデシュにおいて、存在すら軽視される彼らは、まさにマイノリティである。私は協会で子どもたちや学校支援を通して、マイノリティの主張を受け止めようと活動してきた。友人に協力を求めて文具や衣類を収集し、荷物の仕分け、包装、発送を行う。彼らの声なき声を拾い、今の私ができることに取り組む。こうした主体的な取り組みの集合体が、人々を救うのだと信じて、日々実践している。

　私は二つの活動を通して、マイノリティの価値観を認め、彼らの幸せをどのように形にすればよいのかを考えるとともに、具体的な行動で具現化しようと努力してきた。貴学部では「社会改良の礎石となるべき人材の育成」を追求してきたと述べているが、その改良には声なき声を拾い上げることが欠かせない。共同体を生きる人々がそれぞれ意思を持ち、自らの幸せとともに、世界にかかわる他者の幸せを願うなら、関係者すべての声を拾い、その主張を吟味するという過程を経る必要がある。私はその手続きに必要な「共同体の構成員の声を拾うこと」を意識しながら生きている。

　私はこれから民主主義社会において、社会学の探究を通して幸福な社会を構築する担い手として活躍したいと願っている。特に、人工知能による職業の変化、グローバル化による人材の流動化、人口減少による日本経済の縮小など、課題は多種多様である。そうした中で私たちは知恵を絞りながら、未来を創り上げなければならない。その際、共同体に所属する皆が課題を共有し、要因を探ったうえで、これまでの社会を再構築しなければならない。そういった時代に最適化した世界をつくる源は、小さな声をすくいあげる「手のひら」なのである。私は貴学部での社会学の学びを深め、そんな「手のひら」の役割を担えるよう、成長したいと願っている。そして、人々の幸せを心の底から願える人間でありたいと日々考えながら、生きていきたい。

生徒メモ欄

○ 自己アピール構築の概念図



生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター1

Core Identity① 8つの知能

○多重知能理論

有賀三夏『自分の強みを見つけよう 「8つの知能」で未来を切り開く』(ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス)表紙より

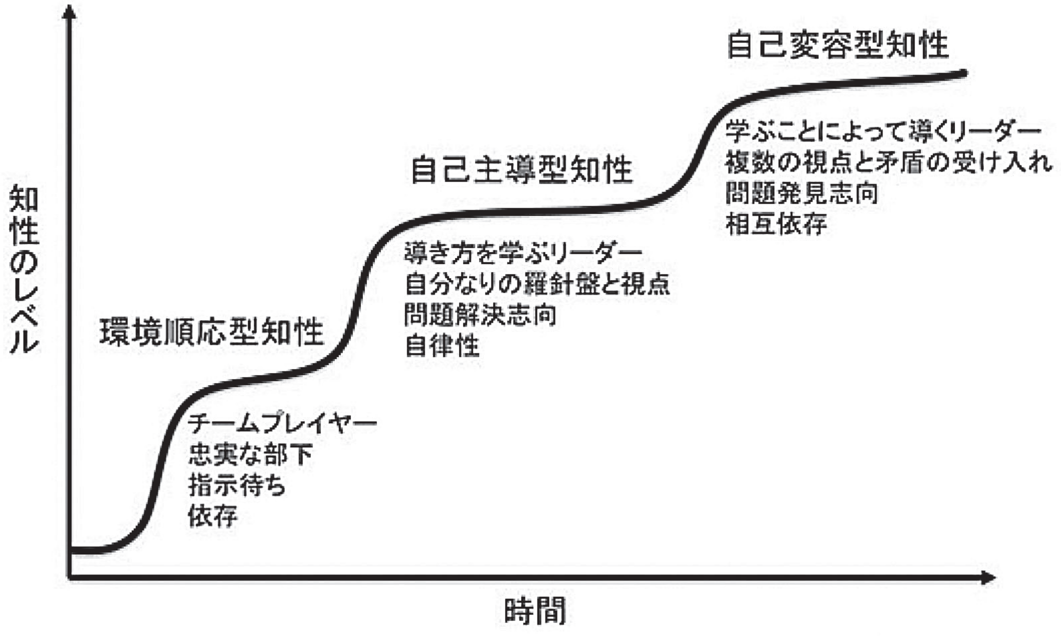
生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター2

Core Identity② 組織の中の自分

○大人の知性の3つの段階



ロバート・キーガン、リサ・ラスコウ・レイヒー 著／池村千秋 訳『なぜ人と組織は変われないのか』(英治出版)
[原典] Translated and reprinted with permission from "Immunity to Change" by Robert Kegan, Lisa Laskow Lahey.
Harvard Business Press Books, 2009. Copyright (c) 2009 Harvard Business School Publishing Corporation; all rights reserved.
Japanese digital reprint arranged with Harvard Business Publishing, Boston through Tuttle-Mori Agency Inc., Tokyo

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター3

Core Identity③ 自己を表すキーワード

○ 性格や特性による分類

① 前向き…
積極的、チャレンジ精神、向上心、リーダーシップ
② 明るさ…
社交的、面倒見がよい、明朗快活
③ 力強さ…
意志が強い、熱意がある、熱心
④ 忍耐強さ…
粘り強い、勤勉、努力、打たれ強い
⑤ クリエイティブ…
独創的、思考が柔軟、感性が豊か、発想力
⑥ 気配り…
思いやり、協調性、気が利く
⑦ まじめさ…
素直、誠実、几帳面、冷静、謙虚
⑧ 知的さ…
探求心、研究熱心、向学心、理性的

○ 自分が持つ能力による分類

① 発見・創造力…
企画力、観察力、思考の柔軟性、想像力、情報収集力
② 理解・判断力…
理解力、問題解決力、論理的思考力、判断力
③ 対人・組織力…
チームワーク、リーダーシップ、対話能力、適応力
④ 表現力…
説得力、説明力、表現力、文章力
⑤ 実行力…
迅速性、正確性、計画性、行動力、主体性、自立性

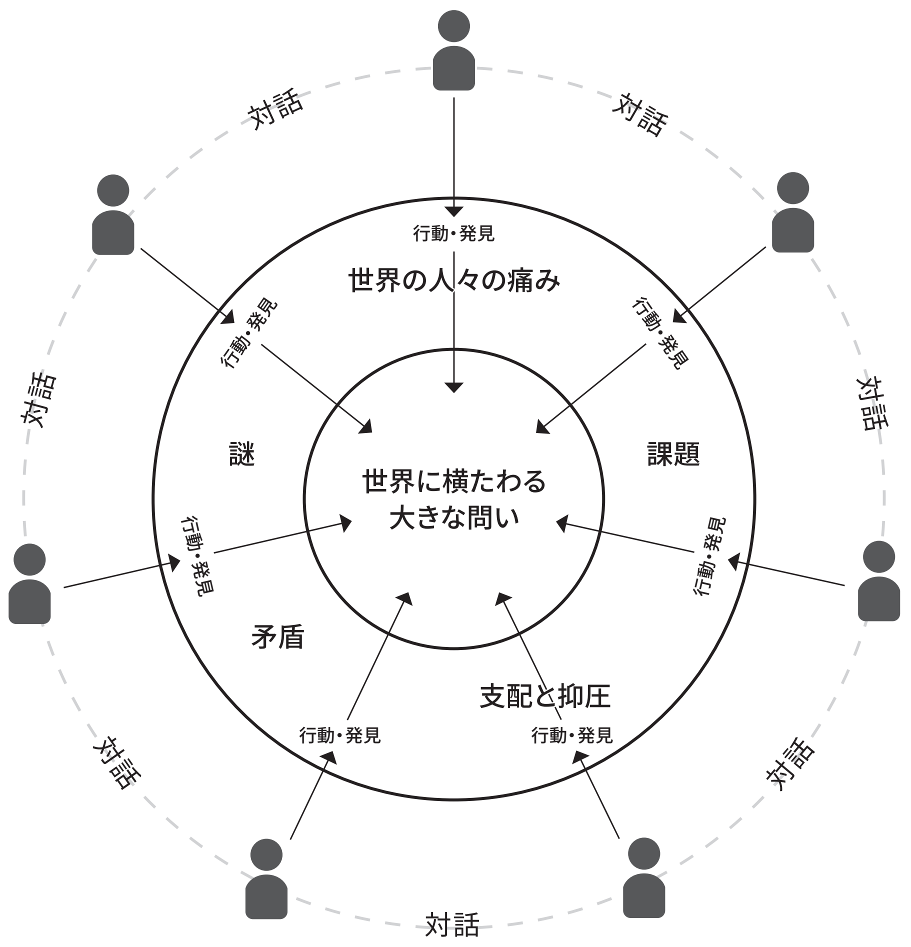
生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター4

おわりに

○探究する意味



生徒メモ欄

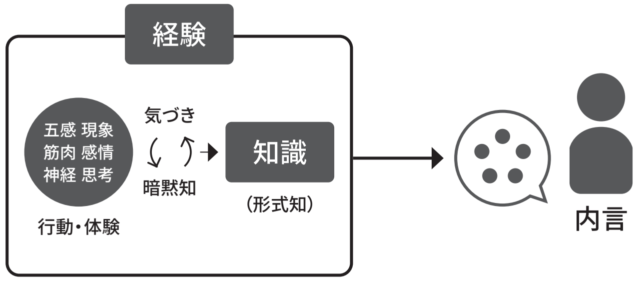
教員記入欄

おわりに

この講座では、大学を研究機関と捉え、志望理由や自己アピールを構築してきました。これらを形にする過程でさまざまな学びを得てきたのではないでしょうか。あなたがともに生きようとする学問とはどういうものなのか、社会とどう接続しているのか、世界に横たわる大きな問いにどう立ち向かっているのか、ということも少しずつ見えてきたのではないでしょうか。

私はそもそも総合型選抜・学校推薦型選抜で合格者を輩出する表面的なテクニックを教えても、それは対症療法でしかないし、私が存在する意味はそこには見出せません。大学という機関が持つ本質は「研究」です。そこを真正面から捉え、「あなたはどういう世界をつくりたいのか（未来創造）」とどう接続するのかを徹底的に考え抜くことが、大学に入学する者であれば最も大事なことです。大学、そしてこれまで先人たちが培ってきた学問を尊重し、さらに歩を進めることが大事だと思っています。

ですから、講座では整理するのに時間がかかることを要求したり、あなたが持たない眼差しを持ち込んだりしました。その過程で、実は大学で学ぶ力も身についていることに気づいたでしょうか。あなたの体験を棚卸ししながら、気づかなかった世界に気づいて知を得たり、書籍や論文に触れながら知を獲得したりしたと思います。そうやってあなたの中に内なる言葉を蓄え、あなたがあなた自身を成長させたわけです。



そう捉えると、この講座を受講する前のあなたと、今のあなたははるかに変わったはずです。まだまだ最先端（フロンティア）までは遠いかもしれないけれど、一筋の光は掴んでいて、大学での学びに希望を見出したり、少し大変かもしれないけれど学問に向き合おうというマインドもスキルも備わったことでしょう。

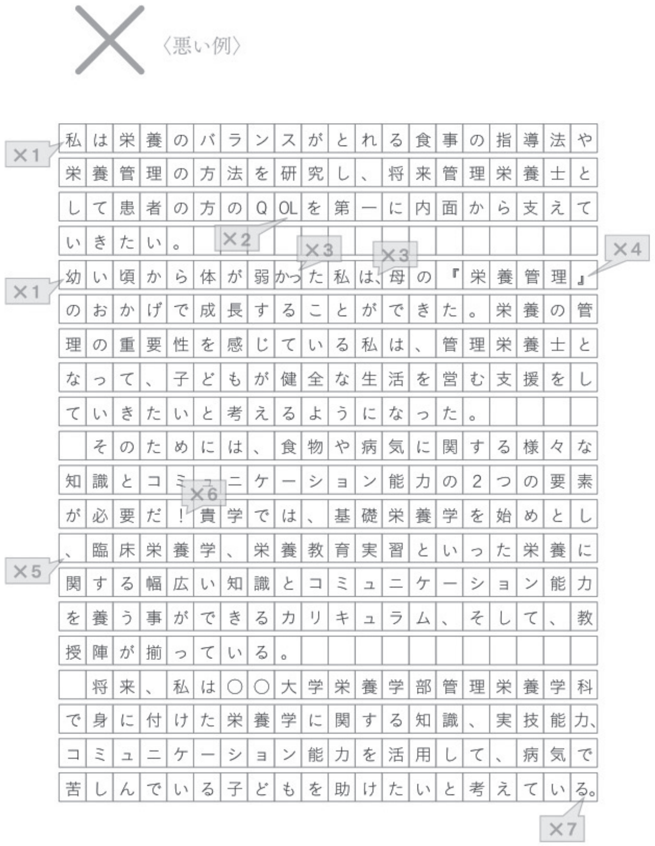
この経験はきっと大学での学問探究を支えることになりますし、もちろん総合型選抜・学校推薦型選抜でもあなたにとって大きな自信になるはずです（私の講座はおそらく日本一ハードですが、真っ当な方法論を当たり前のように語っています）。最後まで取り組んでくれたあなたは、あなたが持つ才能をもとに、きっと世界をつくる人になってくれると信じています。

この講座で養った実力をもとに、全力で試験に挑んでください。きっとあなたにとって素敵な大学生活が待っていることでしょう。私はこれからもあなたを応援し続けています。ぜひ頑張ってください！

神﨑 史彦

○ 原稿用紙の使い方

志望理由書や自己アピール文の書式には、原稿用紙のマス目が用いられることがあります。原稿用紙の使い方を誤ると、減点対象になったり、悪印象を与えたりする恐れがあります。出願書類を書く前には、必ず原稿用紙の使用に関するルールを確認しましょう。些細なミスは、できる限り避けたいものです。



×1 書き始め
書きはじめや段落を分ける場合には、最初の1マス目を空けます。ただし、1マス目から書くように指示されている場合は、その指示に従いましょう。

×2 数字、アルファベット
横書きの原稿用紙で数字を用いるさいは、漢数字とアラビア数字(1、2、など)のどちらも使用できます。アルファベットや単位記号(kmなど)も使えます。アラビア数字やアルファベットを書く時は1ケタならば 1マス1字、2ケタならば1マス2字で記します。

【注意】縦書きの場合、数字は漢数字(一、二など)のみ用い、1字に1マス使用します。アラビア数字は使いません。単位記号やアルファベットはなるべく用いず、カタカナで表記します。

×3 句読点、小文字
句読点や小文字(っ、ゃなど)、カギかっこも1マス分使います。

×4 二重カギかっこ
二重カギかっこ(『　』)は書籍の題名を記す場合や、カギかっこ内でかっこを使用する場合のみ使います。通常はカギかっこ(「　」)を用います。

×5 行の頭
句読点・小文字・とじかっこが行の頭に来る場合は、直前行の最後の1マスに他の文字と共に記入します。

×6 記号、コーテーションマーク
記号(!や?)やコーテーションマーク(“　”)の使用は避けましょう。

×7 句点
最後のマス目に句点を同居させると、字数オーバーになる恐れがあります。最終行に限っては句点も1字と数えましょう。

○ 表現・表記上の注意

志望理由書や自己アピール文を書く際には、表現や表記に気を付けなければなりません。表現・表記への気配りは、読み手の無用な混乱を防ぎます。また、あなたの意図を正しく伝えることにもつながります。一方で、表現や表記上の誤りは減点の対象となる恐れもあります。正しい表現・表記を心掛けましょう。

文章の長さ（○1）

× 私たちは居住環境を維持するために空調・照明・給湯等にエネルギーを投入し、生活排水による有機物汚染などが環境に大きな負荷を与え、自然のエネルギーには限りがあり、人間が対応するには限界があります。

○ 私たちは居住環境を維持するために、空調・照明・給湯等にエネルギーを投入しています。また、生活排水による有機物汚染などが環境に大きな負荷を与えています。自然のエネルギーも、人間が対応する力にも限界があるのです。

呼応表現（○2）

× 疾患の原因物質の構造を理解したり、抗体を作る力が必要だ。
○ 疾患の原因物質の構造を理解したり、抗体を作ったりする力が必要だ。

× なぜなら、ロボットを用いれば人力では動かせない重さの荷物でも動かすことができる。そうしたロボットの開発と普及は福祉や救助の現場で役立つからだ。

○ なぜなら、ロボットを用いれば人力では動かせない重さの荷物でも動かすことができ、そうしたロボットの開発と普及は福祉や救助の現場で役立つからだ。

誤りやすい漢字・送りがな・かな表記（○3）

× 忙がしい → ○忙しい　× 短かい → ○短い　× 決っして → ○決して
× 価値感 → ○価値観　× 少しづつ → ○少しずつ　× コミニュケーション → ○コミュニケーション

句読点（○4）

× 都市緑地改革を、積極的に推進し、明るい社会を、作っていきたい、と考えている。
○ 都市緑地改革を積極的に推進し、明るい社会を作っていきたいと考えている。
× 母に電話をして迎えに来てもらえるよう頼んだ。
○ 母に電話をして、迎えに来てもらえるよう頼んだ。

文末表現（○5）

× その人にとって、生命の質とは何かを探ることが大切です。こうした取り組みは、医療従事者にとって不可欠だと考える。
○ その人にとって、生命の質とは何かを探ることが大切です。こうした取り組みは、医療従事者にとって不可欠だと考えます。
○ その人にとって、生命の質とは何かを探ることが大切だ。こうした取り組みは、医療従事者にとって不可欠だと考える。

会話調の表現・略語（○6）

× そんな、こんな → ○そのような、このような　× 自分はこう思う → ○ 私はこう思う。
× 部活 → ○部活動　× 携帯 → ○ 携帯電話

表現技巧・無意味なカタカナ書き（○7）

× 忘れてはならないのは、豊かな社会の実現。
○ 忘れてはならないのは、豊かな社会を実現させることだ。
× 皆で考えるべきだ、代替エネルギーの普及を。
○ 代替エネルギーの普及を、皆で考えるべきだ。
× 他者を思いやることがイチバンである。
○ 他者を思いやることが一番である。

○1 文章は短く区切る
文章が長くなると、主語と述語、修飾語と被修飾語との関係が曖昧になり、ねじれ表現(「重要なことは、気持ちが無ければならない。」など、主語と述語がねじれている表現)を生む原因となります。

○2 呼応表現は正しく使用
たとえば「なぜなら」と書き始めたら、「〜からだ。」などといった表現を用います。「〜たり、〜たり」は、特に誤りが多い呼応表現です。また、呼応関係は一文中でのみ働きますので、文をまたいで使用することはできません。

○3 漢字表記などの誤り
漢字、送りがな、かな表現の誤りに気を付けましょう。また、漢字のあるものは原則漢字表記です。思い出せない部分のみ平仮名を使用した、漢字かな混じりの表現も適切ではありません。外来語の表記ミスにも注意しましょう。

○4 句読点の注意
句点(。)は文の終わりに打ちます。読点(、)は適切に打ちますが、打ちすぎたり、少なすぎたりしないようにしましょう。また、例文のように読点の位置で文章の意味が変わることがありますので、打つ位置にも気を配りましょう。

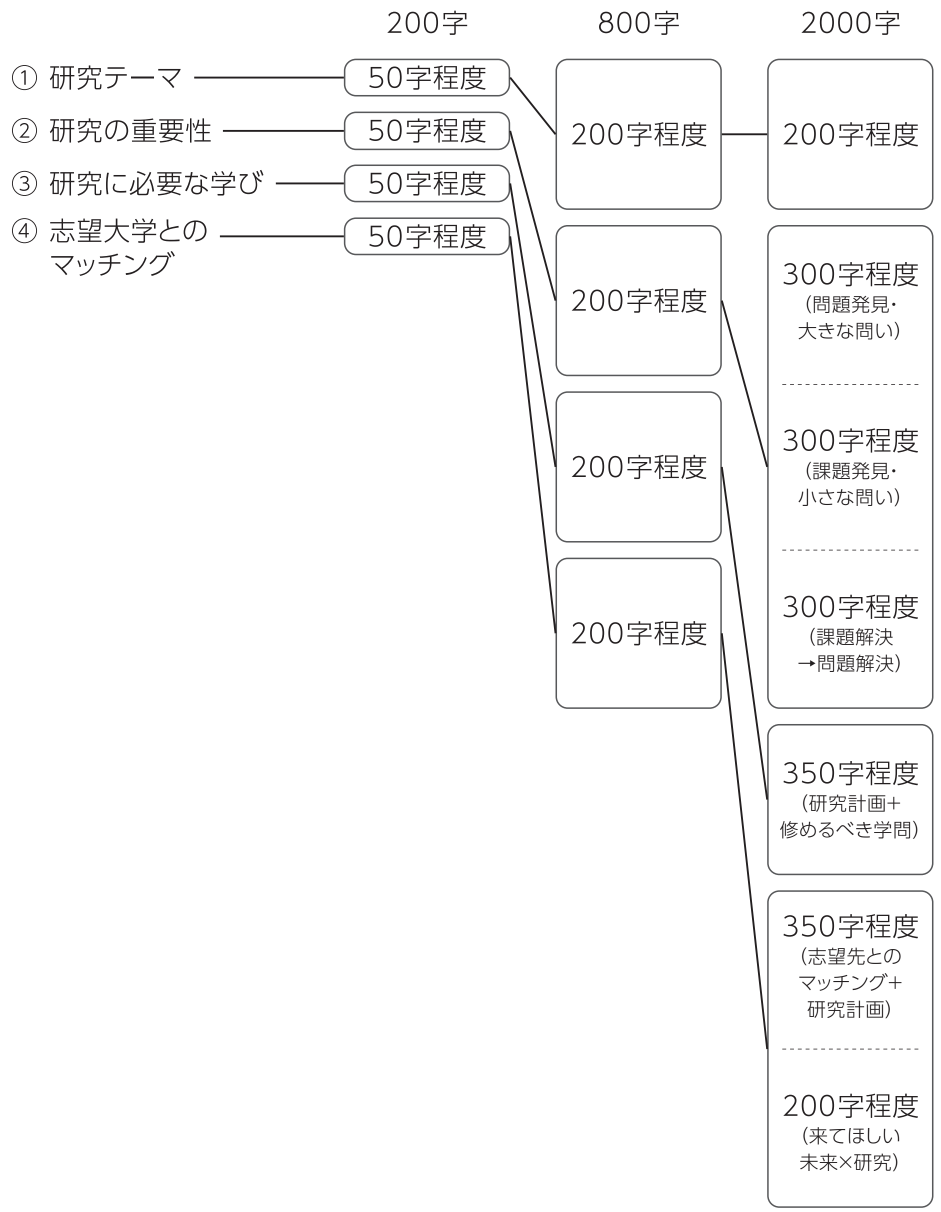
○5 文体を統一する
志望理由書や自己PR文のような出願書類では、敬体(です・ます調)と常体(だ・である調)のいずれを用いてもかまいません。ただし、どちらかに統一します。

○6 会話調の表現・略語は用いない
「なので」「でも」「ちゃんと」「…じゃない」「お父さん」「僕」などは、会話調の表現です。それぞれ「このため」「しかし」「きちんと」「…ではない」「父」「私」などと書き換えましょう。ら抜き言葉(「見れる」「食べれる」「来れる」)なども使用しません。

○7 意図を正確に伝える
体言止め、倒置法、省略などの表現技巧を用いると、解釈を読み手にゆだねることになります。書き手の意図を正確に伝えることを目的とする志望理由書での使用は避けましょう。また、無意味なカタカナ書きの使用も、同様の理由で控えましょう。

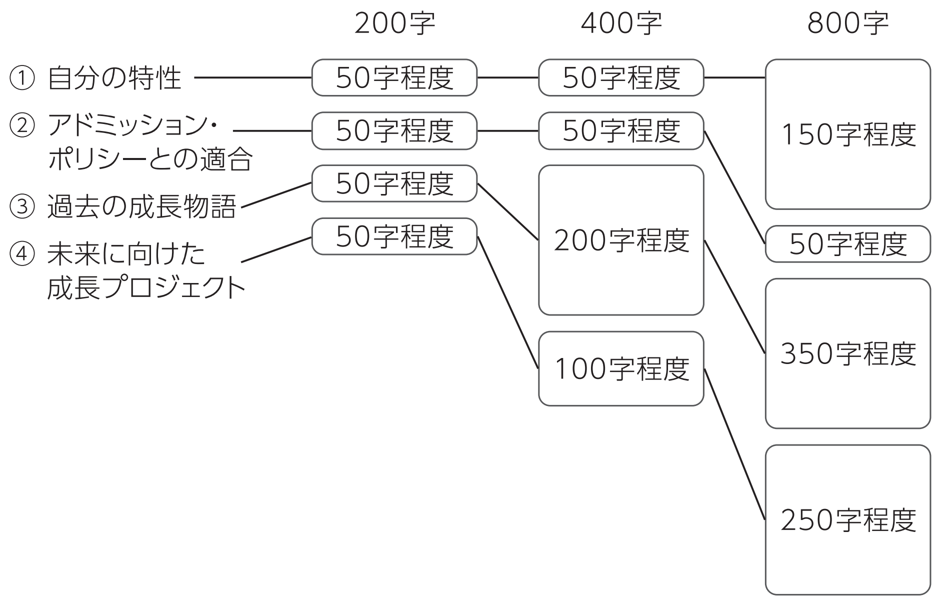
○ 段落の設定

●志望理由書の場合



○ 段落の設定

●自己アピール文の場合



巻末資料①　書類の表記・表現方法チェックシート

○ 字数の調整

●字数の増やし方

曖昧な表現、抽象的な表現を詳細に示す（解像度を上げる）

例を見てみよう

（修正前）　私は、法学部で公法について学びたい。

↓

（修正後1）　私は、法学部法律学科で憲法学を学びたい。

（修正後2）　私は、法学部法律学科で憲法学を学びたい。特に日本国憲法にある基本的人権の尊重をもとに既存の法律を紐解いたとき、法律によって差別問題が引き起こされている現実をどう捉え直し、修正していくべきかを考えていきたい。

（修正後3）　私は、法学部法律学科で憲法学を学びたい。特に日本国憲法にある基本的人権の尊重をもとに既存の法律を紐解いたとき、法律によって格差問題が引き起こされている現実をどう捉え直し、修正していくべきかを考えていきたい。具体的には一票の格差の問題を取り上げる。選挙権の平等を論じるとき、一人一票の原則が前提になるが、残念ながら投票価値の平等が保たれない現実がある。こうした場合、裁判所により違憲か否かが判断されるが、それに妥当性があるか、もし妥当性が危うい場合は法をどう修正すればよいのかということを研究していきたい。

○ 字数の調整

●字数の減らし方

重複表現や修飾語句の削減、熟語の使用、遠回しの表現（無駄のない表現にする）

例を見てみよう

（修正前）　SNSをはじめ、私たちがインターネット上で自分の考えていることを表現したとき、嫌がらせのような書き込みをする人々がいることによって、とても不快に感じてしまう場面が起こりうる。こうした問題にどう対処すればよいのだろうか。

↓

（修正後1）　私たちがSNSで自分の考えていることを表現したとき、嫌がらせのような書き込みをする人々がいることによって、不快に感じてしまう場面が起こりうる。こうした問題にどう対処すればよいのだろうか。

（修正後2）　私たちがSNSで自己表現をしたとき、誹謗中傷を行う人々がいることによって、不快に感じてしまう場面が起こりうる。こうした問題にどう対処すればよいのだろうか。

（修正後3）　私たちがSNSで自己表現をしたとき、誹謗中傷によって不快感を覚える場面が起こりうる。この問題の対処法を考えたい。

巻末資料②　志望理由書　ルーブリック

ルーブリックとは、学習の達成度の評価指標を表で示したものです。縦軸は評価の観点、横軸は学習者の到達度を示します。なお、それぞれの評価基準を文章で表現していますが、抽象的に示していますので、評価基準の文章と自分の答案を照らし合わせ、まずは「このあたりはできている（できていない）」という評価を自分なりにしてみてください。そして、次のレベルに到達するにはどのようなことをする必要があるのかを考え、答案を修正してください。目安として、すべての項目がB評価以上になるように頑張ってみてください。

●内容

項目		評価ポイント	S	A	B	C	F
大学での学びの明確さ（研究テーマの設定）	研究テーマの妥当性	① 自己の課題観および研究テーマの明確さ ② 課題解決と学部・学科の専門性との関連 ③ ②の妥当性 ④ ②の社会的ニーズの有無	明確な自己の課題観に基づいて大学で志す学びを明確にしており、その学びに社会的意義があることを理解している。加えて、その解決方法が他の方法・手段と比べて妥当性があることを反論を想定したうえで説明できている。	明確な自己の課題観に基づいて大学で志す学びを明確にしており、その学びに社会的意義があることを理解している。	明確な自己の課題観に基づいて大学で志す学びを明確にしている。	明確な自己の課題観はあるものの、大学で志す学びを明確にしていない。	自己の課題観が明確かどうか判定できない。
	独創性・先端性	① 課題解決の視点・手段の独創性 ② 課題解決の視点・手段の先端性	認識している課題を解決する視点や手段に独創性があり、かつ先端性があるものである。	認識している課題を解決する視点や手段に独創性がある。	認識している課題を解決する視点や手段を具体的に提示しているものの、既存のものである、もしくは類似したものである。	認識している課題を解決する視点や手段が一般論に終始している。	課題を解決する視点や手段が明確かどうか判定できない。
研究の重要性（継続的な探究心）	現状認識の十分さ	① 情報源の確かさ ② 複数の情報源からの情報収集 ③ 情報活用時の中立性	信頼できる様々な情報源から、中立的な視点に立ち、これまでに明らかにされた知見を得ている。	信頼できる様々な情報源から知見を得ている。	信頼できる情報源から知見を得ているが、単数である。	信頼性を欠く情報源から知見を得ている、もしくは自己の経験による知見のみに依存している。	信頼できる情報源もしくは自己の経験から知見を得ているかどうか、判定できない。
	問題発見・解決能力の有無	① 情報をもとにした問題発見 ② 問題に紐づく課題の発見 ③ 問題および課題の発生要因分析 ④ ③の解決方法の提示と学部・学科での学びとの関連性	自ら手に入れた情報をもとに問題を発見し、それに紐づいた課題を多角的な視点から発見している。加えて、それらの発生要因を分析したうえで、解決方法を学部・学科での学びと関連付けて提示している。	自ら手に入れた情報をもとに問題やそれに紐づく課題を発見し、発生要因を分析したうえで、解決方法を学部・学科での学びと関連付けて提示している。	自ら手に入れた情報をもとに問題を発見しているが、解決方法を学部・学科での学びと関連付けが不十分である。	自ら手に入れた情報から問題を発見しようとしていない、もしくは解決方法を学部・学科での学びと関連付けて提示していない。	自ら手に入れた情報から問題を発見しようとしていない、かつ解決方法を学部・学科での学びと関連付けて提示しているかどうか判定できない。
	継続的な学び	① 現状認識から学部・学科進学決定までの「探究」の継続性 ② 自己の体験・経験・実績・資格取得等との関連性	現状認識をもとに、学部・学科進学決定に至るまで、継続的に「探究」していることを、自己の実績・資格取得等と結び付けて示している。	自己の体験・経験を起点とし、情報収集をもとにした現状認識を踏まえ、学部・学科進学決定に至るまで、継続的に「探究」していることを示している。	自己の体験・経験を起点にし、情報収集をもとにした現状認識を踏まえ、学部・学科進学決定に至るまで「探究」している。	自己の体験・経験を起点に学部・学科進学決定をしているが、「探究」している様子がうかがえない。	自己の体験・経験がなく、学部・学科進学を決定している、かつ「探究」している様子がうかがえるかが、判定できない。
志望先とのマッチング（研究テーマと志望先との整合性）	研究テーマに必要な学びの理解	① 研究課題解決に必要な学びの認識の有無 ② ①に該当する学問領域および研究環境の理解	自らの研究課題解決に必要な学びを分析・細分化し、具体的な学問領域や研究環境まで踏み込んで示している。	自らの研究課題解決に必要な学びを分析し、自分の専門領域外の学問まで目を向けている様子がわかる。	自らの研究課題解決に必要な学びを自分の言葉で咀嚼して示している。	自らの研究課題解決に必要な学びを示しているが、自分の言葉で咀嚼して示していない（パンフレットの記述そのまま）、もしくは漠然とした記述に終始している。	自らの研究課題解決に必要な学びについて示しているかどうか、判定できない。
	志望先とのマッチング	① 自らの研究課題と志望先での学びとの整合性 ② 志望先のリソースの理解をもとにした志望先選択 ③ 志望先選択の合理性・説得性	自らの研究課題の解決のために、志望先（大学・学部・学科）での学びが必要であることをカリキュラム・授業内容・指導教員といった大学のリソースを理解したうえで示しており、他大学と比較しても志望先へ進学しなければならないことを説得的に述べている。	自らの研究課題の解決のために、志望先で（大学・学部・学科）での学びが必要であることをカリキュラム・授業内容・指導教員といった大学のリソースを理解したうえで具体的に示している。	自らの研究課題の解決のために、志望先で（大学・学部・学科）での学びが必要であることを具体的に示している。	自らの研究課題と志望先での学びが結びついた記述があるものの、具体性に欠ける。	自らの研究課題と志望先での学びが結びついているかどうか、判定できない。

巻末資料②　志望理由書　ルーブリック

●表記・表現

項目		評価ポイント	S	A	B	C	F
表記・表現	誤字・脱字	① 誤字・脱字の有無 ② 漢字かな交じりの表現の有無	誤字・脱字がなく、漢字かな交じりの表現もない。	―	―	誤字・脱字および漢字かな交じりの表現が1つまたは2つある。	誤字・脱字および漢字かな交じりの表現が3つ以上ある。
	段落の設定	意味性のある段落構成	意味性を持って段落を区切っている。（最低限、「研究テーマの提示」「動機」「志望先とのマッチング」の3か所で区切っている）	―	―	意味性を持たずに段落を区切っている箇所がある。（「研究テーマの提示」「動機」「志望先とのマッチング」の区切りが曖昧な箇所がある）	段落を区切っていない、もしくは段落を区切りすぎている。（一文で区切るなど）
	制限字数	制限字数の厳守	制限字数の９割以上、かつ制限字数をオーバーしていない。	―	―	制限字数の８割～９割未満である。	制限字数の8割未満、もしくは制限字数をオーバーしている。
	文体の統一	敬体・常体の統一	文体を「だ・である」「です・ます」のいずれかに統一している。	―	―	―	文体を「だ・である」「です・ます」のいずれかに統一していない。
	表現技法	① 呼応表現 ② 句読点 ③ 文のねじれ ④ 主語・目的語・述語の明示 ⑤ 省略語・若者言葉 ⑥ 出願書類特有の表現	明らかな表現上の不備がない。（呼応表現、句読点、文のねじれのなさ、主語・目的語・述語の無用な省略のなさ、無用な省略語・若者言葉の使用のなさ、出願書類特有の表現）	―	―	明らかな表現上の不備が１つまたは2つある。（呼応表現、句読点、文のねじれのなさ、主語・目的語・述語の無用な省略のなさ、無用な省略語・若者言葉の使用のなさ、出願書類特有の表現）	明らかな表現上の不備が3つ以上ある。（呼応表現、句読点、文のねじれのなさ、主語・目的語・述語の無用な省略のなさ、無用な省略語・若者言葉の使用のなさ、出願書類特有の表現）

巻末資料③　自己アピール文　ルーブリック

ルーブリックとは、学習の達成度の評価指標を表で示したものです。縦軸は評価の観点、横軸は学習者の到達度を示します。なお、それぞれの評価基準を文章で表現していますが、抽象的に示していますので、評価基準の文章と自分の答案を照らし合わせ、まずは「このあたりはできている（できていない）」という評価を自分なりにしてみてください。そして、次のレベルに到達するにはどのようなことをする必要があるのかを考え、答案を修正してください。目安として、すべての項目がB評価以上になるように頑張ってみてください。

●内容

項目		評価ポイント	S	A	B	C	F
Core Identity（長所の設定）	具体性	具体的な長所の明示	長所が具体的で、能力・行動ならびに思考特性がよくわかる。かつ、志望校に合格させるメリットがあると感じさせる表現である。	長所が具体的で、能力・行動ならびに思考特性がよくわかる。	長所が具体的で、能力や行動ならびに思考特性がおおよそわかる。	長所が具体的でなく、能力や行動ならびに思考特性がわかりにくい。	具体的な長所かどうか、判定できない。
	独自性	独自性のある長所の明示	自己を深く見つめ、自分に身についた長所を独自の分析で導いている。かつ、他者にはない独自の長所を示している。	自己を深く見つめ、自分に身についた長所を独自の分析で導いている。または、他者にはない独自の長所を示している。	自分なりに長所を示しているが、誰でも当てはまりそうな内容に留まっている。	自分なりに長所を示しているが、高校生としての知性を感じさせないものである。	独自性がある長所かどうか、判定できない。
根拠（長所を志望校にアピールする理由説明）	経験をもとにした説明	① 自己の経験の振り返りの有無 ② ①の中にある課題の抽象化 ③ ②の原因分析 ④ 長所による③の改善とその経緯	自己の経験をもとに、そのときに生じた課題に対して客観的に原因分析を行ったうえで、自らの長所をどう活用すればよいのかを考え、改善へ導いている。よって、長所のメリットが明確に伝わる。	自己の経験をもとに、そのときに生じた課題を自らの長所によってどう改善したのかを分析している。よって、長所のメリットがおおよそ伝わる。	自己の経験を述べているものの、長所をどう生かしたのかといった考察が施されていない。	自己の経験を述べているが、長所のアピールと関係のない記述が大半を占めている。	自己の経験と長所の関係性を判定できない。
	信憑性・客観性	① アピールポイントおよび説明の信憑性 ② 主観・感想を排除したアピール	事実による説明により、説得力がある具体性の高い内容となっている。内容・表現ともに信憑性が高い。	事実による説明に終始しており、内容・表現ともにおおよそ信憑性がある。	時折、主観・感想が混じるものの、事実による説明があるので、内容は信憑性があると思われる。	主観・感想が多くを占めており、事実による説明があまりない。もしくは、信憑性が疑われる内容および表現がある。	信憑性・客観性が判定できない。
	志望校とのマッチング	① 長所とアドミッションポリシーの合致 ② ①の志望先への十分な説明	アドミッションポリシーに合った長所を示し、その説明を適切に行い、志望先に対するアピールを行えている。	アドミッションポリシーに合った長所を示し、志望先に対するアピールを行う姿勢がうかがわれる。	アドミッションポリシーに合った長所を示しているが、志望先に対するアピールを十分に行えているとはいえない。	アドミッションポリシーに合った長所とはいえない。	アドミッションポリシーに合った長所かどうか判定できない。
未来創造（長所の活用）	志望校での長所の活用	① 長所を志望校での学びで生かしたいという意思表示の有無 ② 具体的な生かし方の提示	長所を志望校での学びにどのように生かしたいのかを授業や研究内容と絡めながら述べ、学んだ末にどのような成果を上げたいのかを明示している。	長所を志望校での学びにどのように生かしたいのかを、授業や研究内容と絡めながら具体的に示している。	長所を志望校での学びにどのように生かしたいのかを示しているが、具体性に欠ける。	長所を志望校でどのように生かしたいのかを示しているが、学びと関係性が薄い記述である。	長所を志望校での学びにどのように生かしたいのかを示しているかどうか、判定できない。
	社会貢献	① 長所を社会で生かしたいという意思表示の有無 ② 具体的な生かし方の提示	長所を社会でどのように生かしたいのかを職業や社会動向と絡めながら述べ、その結果としてどのような目的を達成したいのかを明示している。	長所を社会でどのように生かしたいのかを、職業や社会動向と絡めながら具体的に示している。	長所を社会でどのように生かしたいのかを示しているが、具体性に欠ける。	長所を将来どのように生かしたいのかを示しているが、社会との関係性が薄い記述である。	長所を社会でどのように生かしたいのかを示せているかどうか、判定できない。

巻末資料③　自己アピール文　ルーブリック

●表記・表現

項目		評価ポイント	S	A	B	C	F
表記・表現	誤字・脱字	① 誤字・脱字の有無 ② 漢字かな交じりの表現の有無	誤字・脱字がなく、漢字かな交じりの表現もない。	―	―	誤字・脱字および漢字かな交じりの表現が1つまたは2つある。	誤字・脱字および漢字かな交じりの表現が3つ以上ある。
	段落の設定	意味性のある段落構成	意味性を持って段落を区切っている。（最低限、「研究テーマの提示」「動機」「志望先とのマッチング」の3か所で区切っている）	―	―	意味性を持たずに段落を区切っている箇所がある。（「研究テーマの提示」「動機」「志望先とのマッチング」の区切りが曖昧な箇所がある）	段落を区切っていない、もしくは段落を区切りすぎている。（一文で区切るなど）
	制限字数	制限字数の厳守	制限字数の9割以上、かつ制限字数をオーバーしていない。	―	―	制限字数の8割～9割未満である。	制限字数の8割未満、もしくは制限字数をオーバーしている。
	文体の統一	敬体・常体の統一	文体を「だ・である」「です・ます」のいずれかに統一している。	―	―	―	文体を「だ・である」「です・ます」のいずれかに統一していない。
	表現技法	① 呼応表現 ② 句読点 ③ 文のねじれ ④ 主語・目的語・述語の明示 ⑤ 省略語・若者言葉 ⑥ 出願書類特有の表現	明らかな表現上の不備がない。（呼応表現、句読点、文のねじれのなさ、主語・目的語・述語の無用な省略のなさ、無用な省略語・若者言葉の使用のなさ、出願書類特有の表現）	―	―	明らかな表現上の不備が1つまたは2つある。（呼応表現、句読点、文のねじれのなさ、主語・目的語・述語の無用な省略のなさ、無用な省略語・若者言葉の使用のなさ、出願書類特有の表現）	明らかな表現上の不備が3つ以上ある。（呼応表現、句読点、文のねじれのなさ、主語・目的語・述語の無用な省略のなさ、無用な省略語・若者言葉の使用のなさ、出願書類特有の表現）